

盛岡広域圏社会経済動態調査 (追加報告)

平成26年11月28日

株式会社日本経済研究所

目次

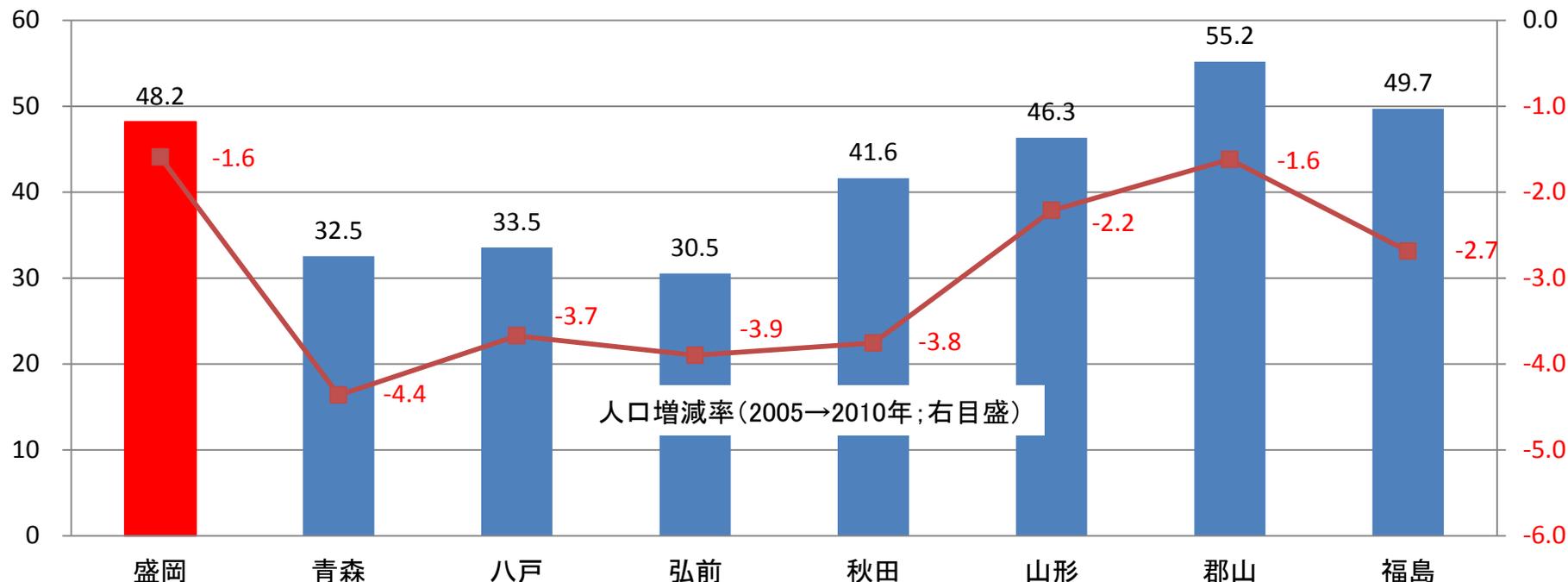
1. 盛岡広域圏の社会経済動態	3
3. 今後強化又は新たに取り組むべき方向性 (前回の追加分)	36

1. 盛岡広域圏の社会経済動態

(1)他の東北広域圏との比較ー人口

盛岡広域圏は、北東北広域圏の中では最大の人口を擁し、人口減少率も足元では最も小さい

人口(2010年;万人、%)



各広域圏の市町村は、経済産業省「工業統計調査」における「工業地区」と一致させ、下記の通りとしている(以下、同じ)。

青森: 青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町

八戸: 八戸市、おいらせ町、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村

弘前: 弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町

秋田: 秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村

山形: 山形市、寒河江市、上山市、天童市、山辺町、中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町

郡山: 郡山市、須賀川市、田村市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町

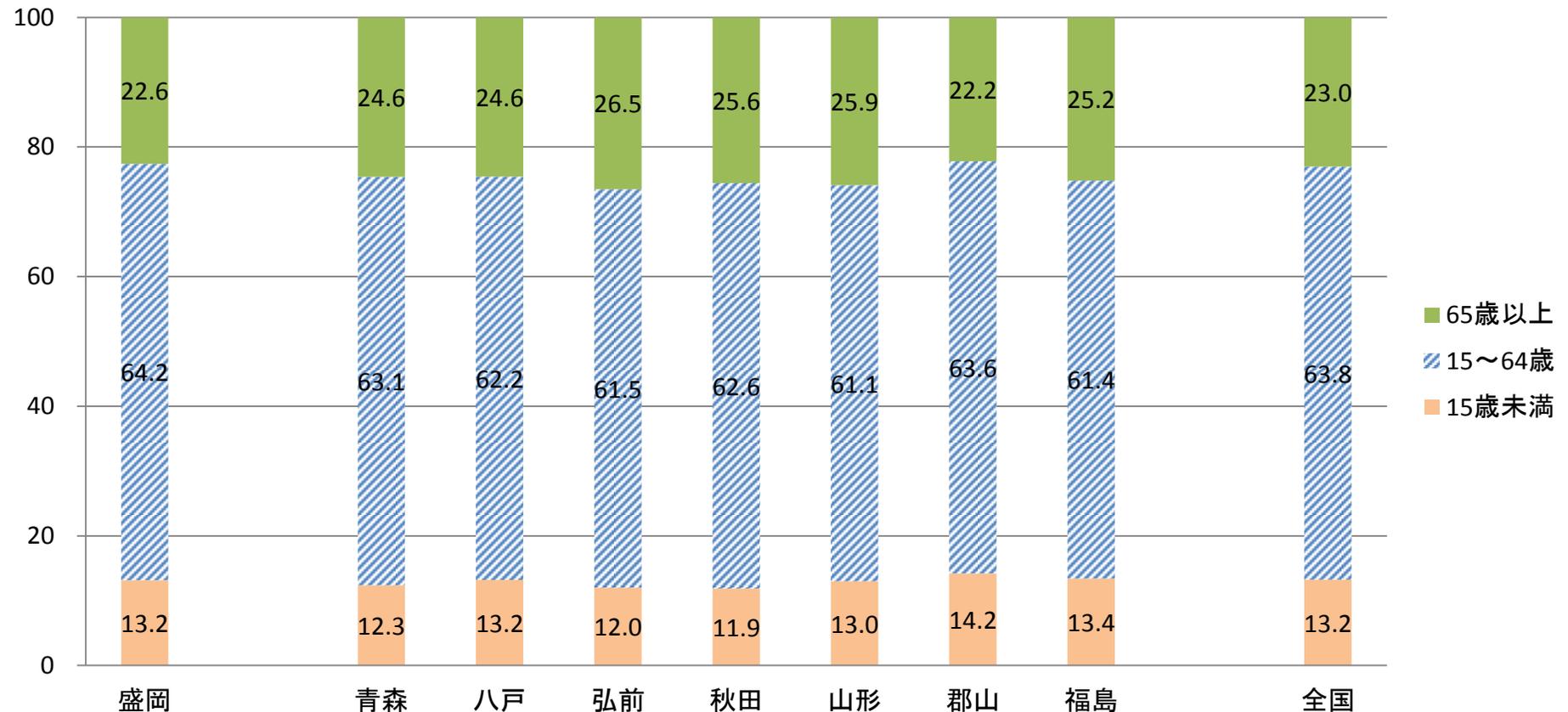
福島: 福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(1)他の東北広域圏との比較一年齢別人口構成

盛岡広域圏は、現状、東北広域圏(仙台といわきを除く、以下同じ)の中では、生産年齢人口比率は最も高く、高齢者の比率は郡山に次いで低い

年齢別人口構成(2010年;%)

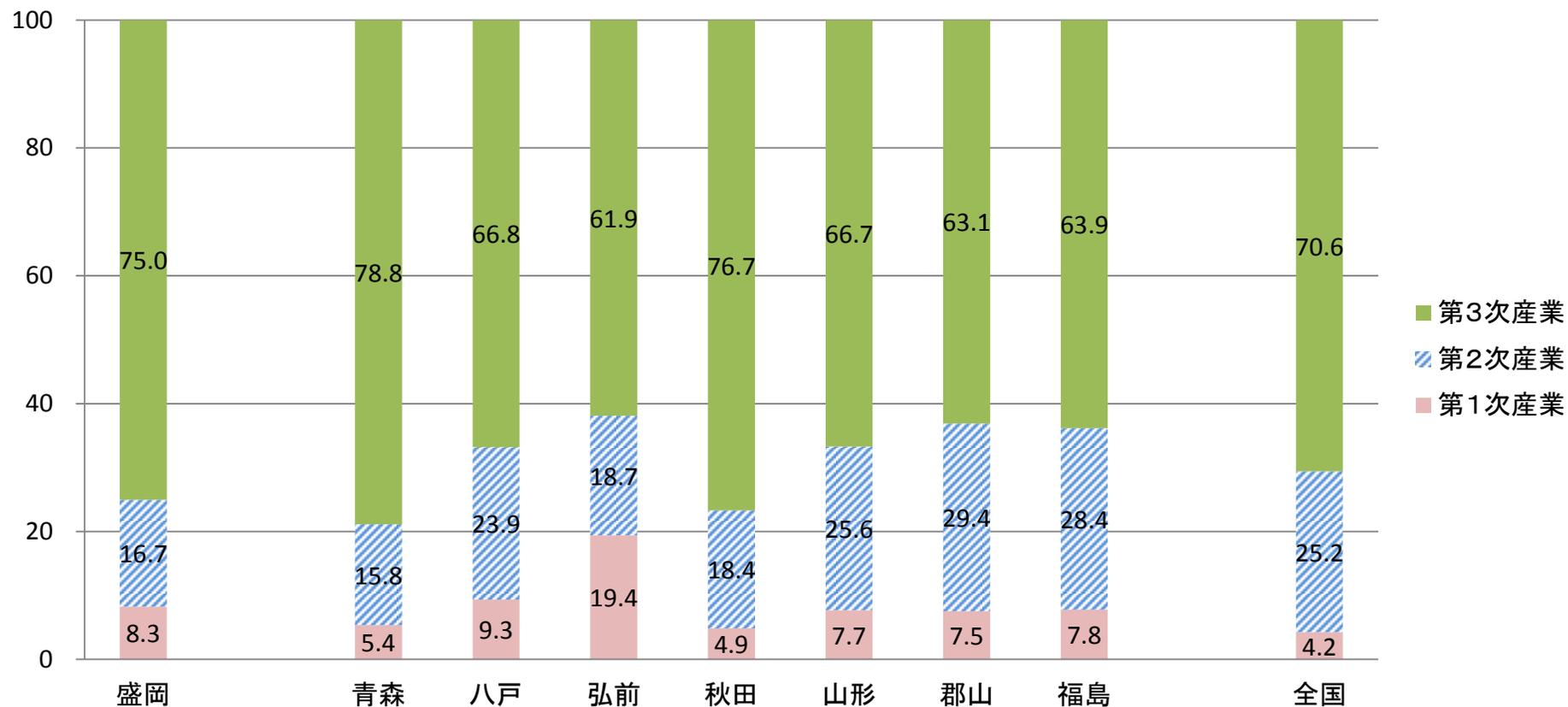


出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(1)他の東北広域圏との比較－就業者比率

盛岡広域圏は、東北広域圏の中では、第2次産業の就業者比率が青森広域圏に次いで低い

就業者比率(2010年;%)



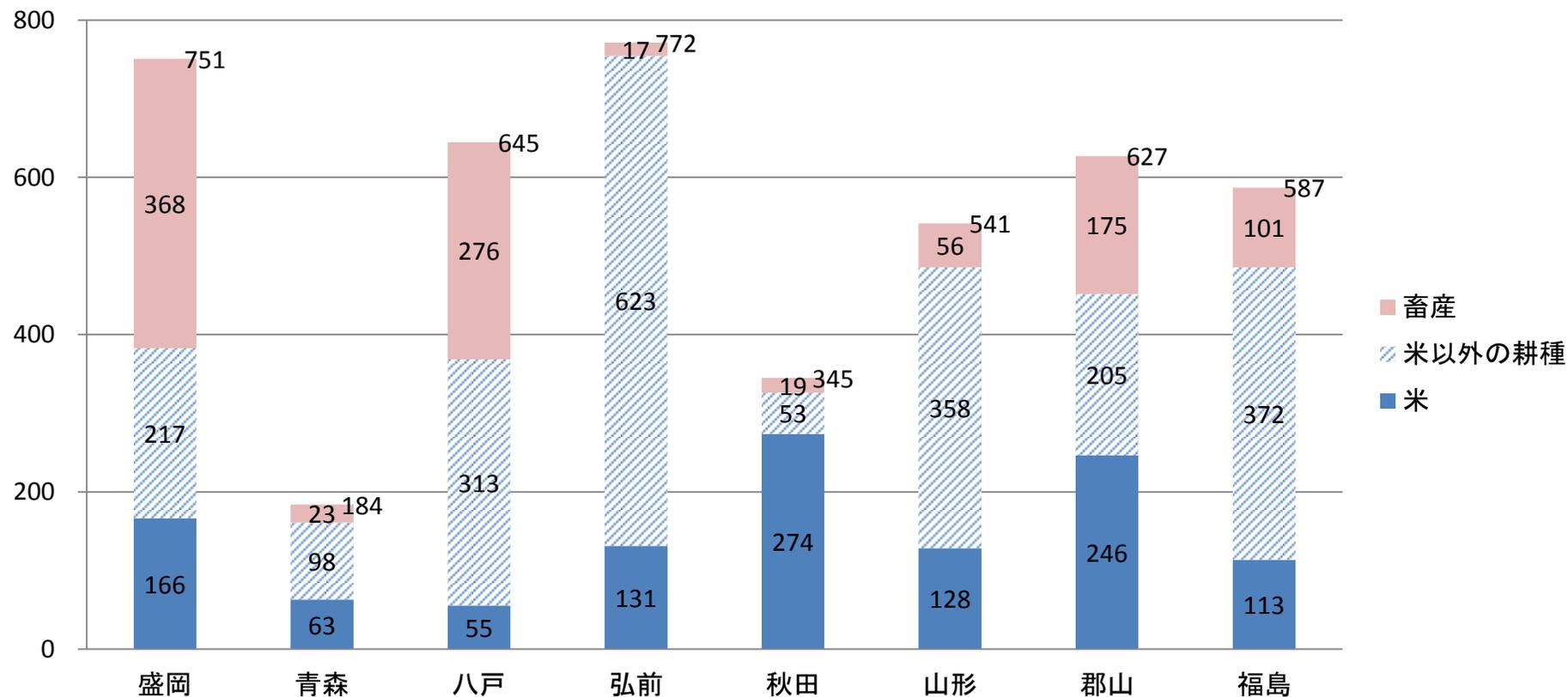
(注)「分類不能の産業」を除いて比率を計算している

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(1)他の東北広域圏との比較－農業産出額

盛岡広域圏の農業産出額は、東北広域圏の中では弘前広域圏に次いで多く、中でも畜産の産出額が多い

農業産出額(2006年;億円)



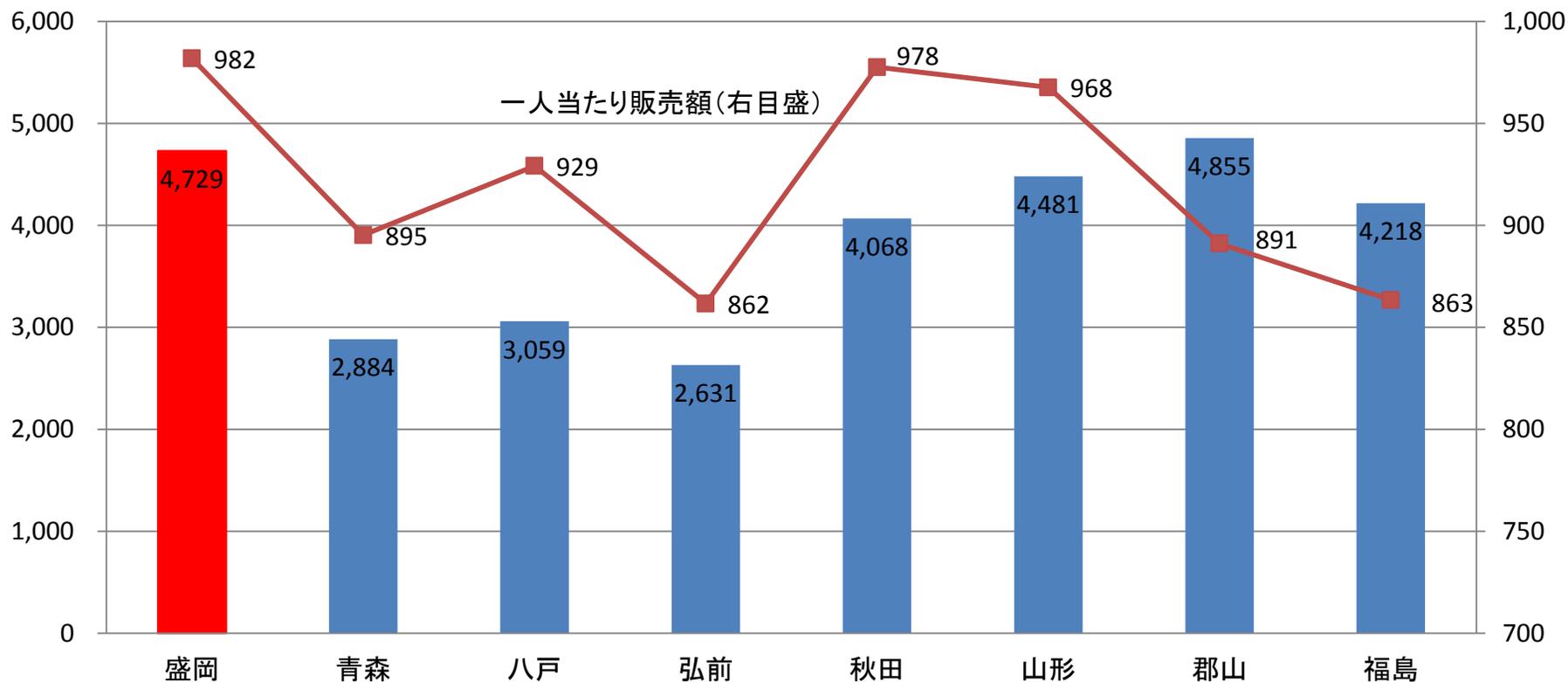
(注)西目屋村と田舎館村(いずれも弘前広域圏)の畜産の数値は秘匿されているため、算入していない
加工農産品を除く

出典:「生産農業所得統計(平成18年)」より、当所作成

(1)他の東北広域圏との比較－小売業販売額

盛岡広域圏の小売業販売額は、東北広域圏の中では郡山の次に多く、一人当たり販売額では最多

小売業年間販売額 (2012年;億円、千円/人)



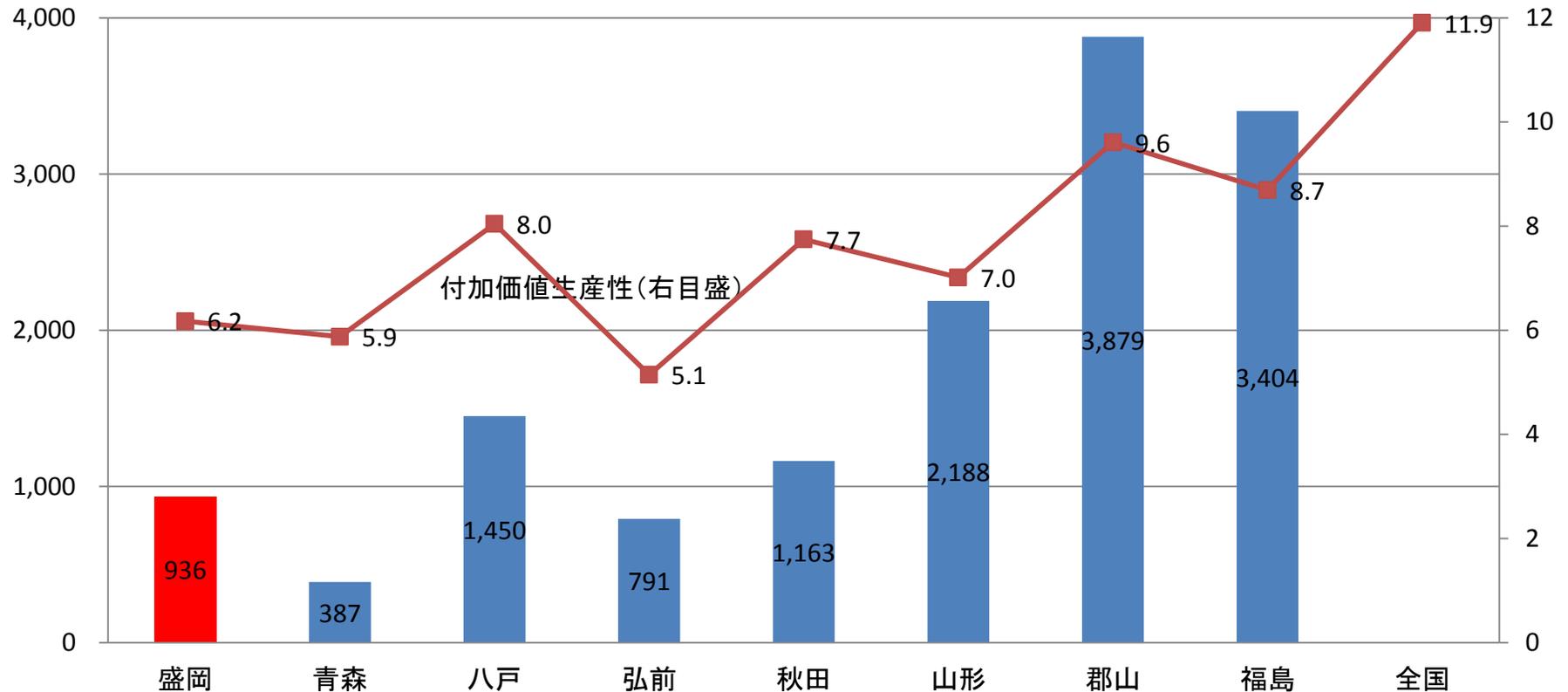
(注) 蓬田村(青森圏)、田子町(八戸圏)、浅川町(郡山圏)、大玉村(福島圏)の数値は秘匿されているため、算入していない

出典:「平成24年経済センサス」、「平成22年国勢調査」より、当所作成

(1)他の東北広域圏との比較－製造業付加価値額

東北広域圏の製造業付加価値性は、いずれも全国平均を下回っているが、その中でも盛岡広域圏は下位にとどまる

製造業付加価値額 (2012年; 億円、百万円/人)

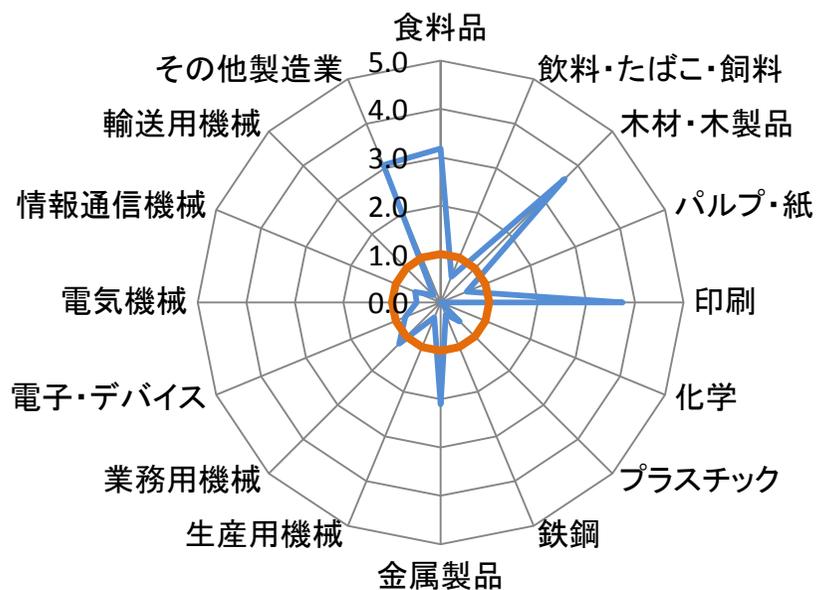


出典:「平成24年工業統計調査(工業地区編)」(経済産業省大臣官房調査統計グループ)より、当所作成

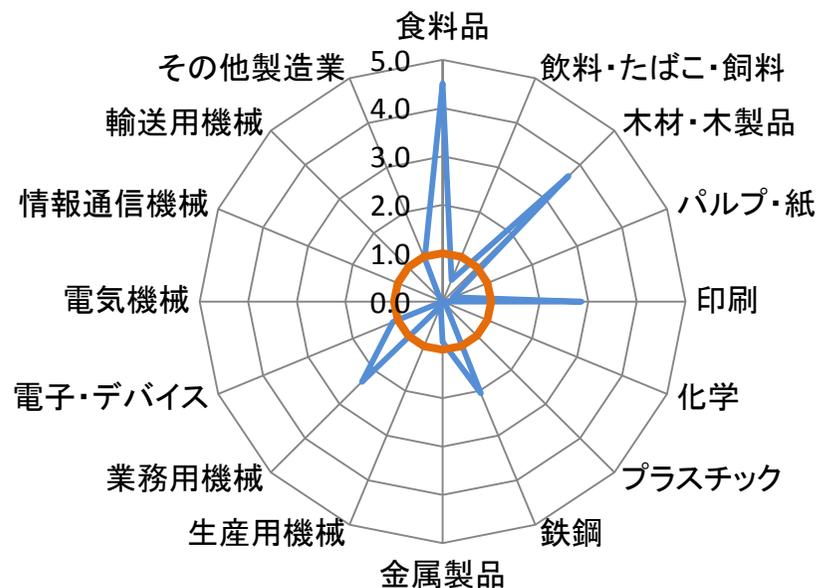
(1)他の東北広域圏との比較－製造業付加価値額の特化係数

製造業付加価値額の特化係数を見ると、盛岡広域圏では食料品等の数値が高いが、八戸の pulp・紙や、秋田の木材・木製品のように突出した産業はない

製造業付加価値額 特化係数
盛岡広域圏(全国=1)



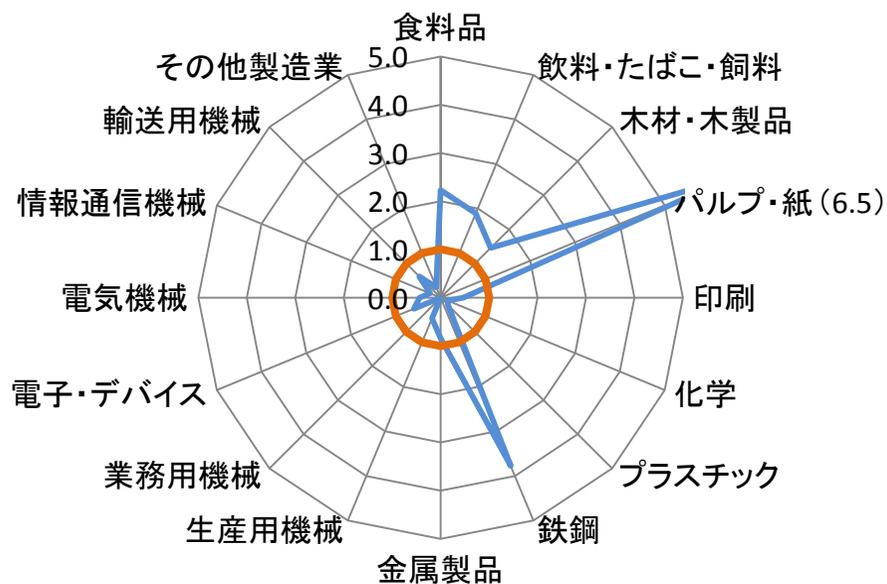
製造業付加価値額 特化係数
青森広域圏(全国=1)



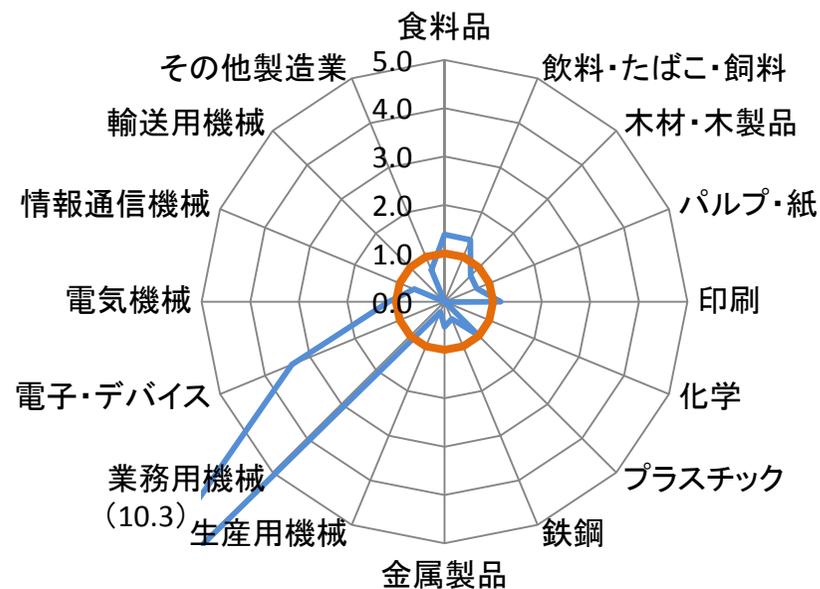
出典:「平成24年工業統計調査(工業地区編)」(経済産業省大臣官房調査統計グループ)より、当所作成

(1)他の東北広域圏との比較－製造業付加価値額の特化係数

製造業付加価値額 特化係数
八戸広域圏(全国=1)



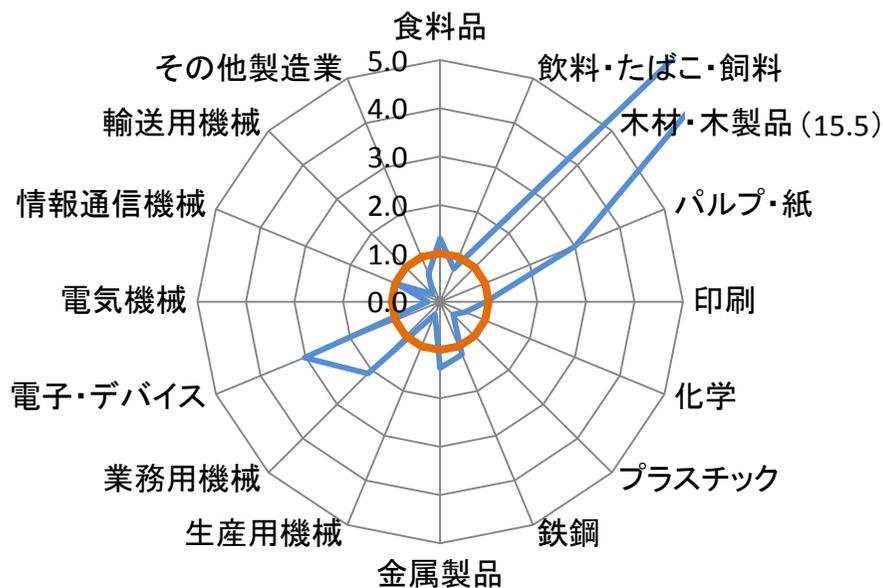
製造業付加価値額 特化係数
弘前広域圏(全国=1)



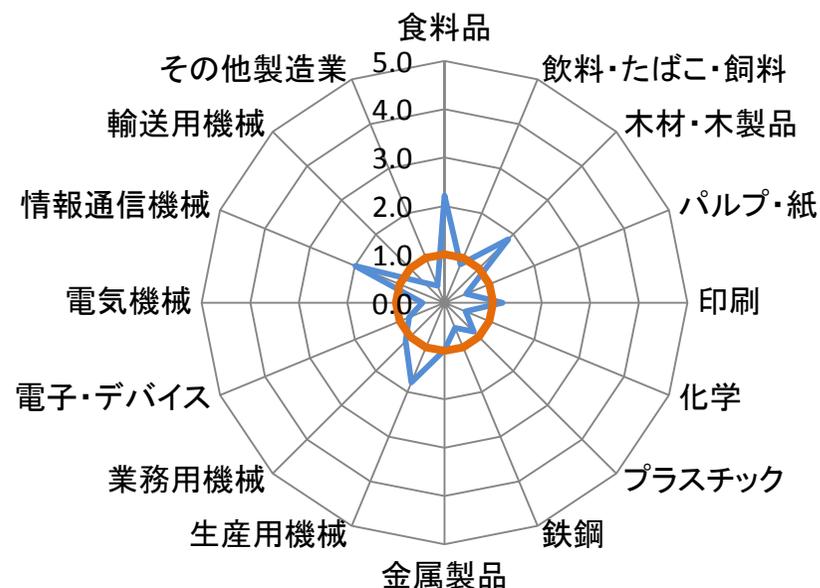
出典:「平成24年工業統計調査(工業地区編)」(経済産業省大臣官房調査統計グループ)より、当所作成

(1)他の東北広域圏との比較－製造業付加価値額の特化係数

製造業付加価値額 特化係数
秋田広域圏(全国=1)



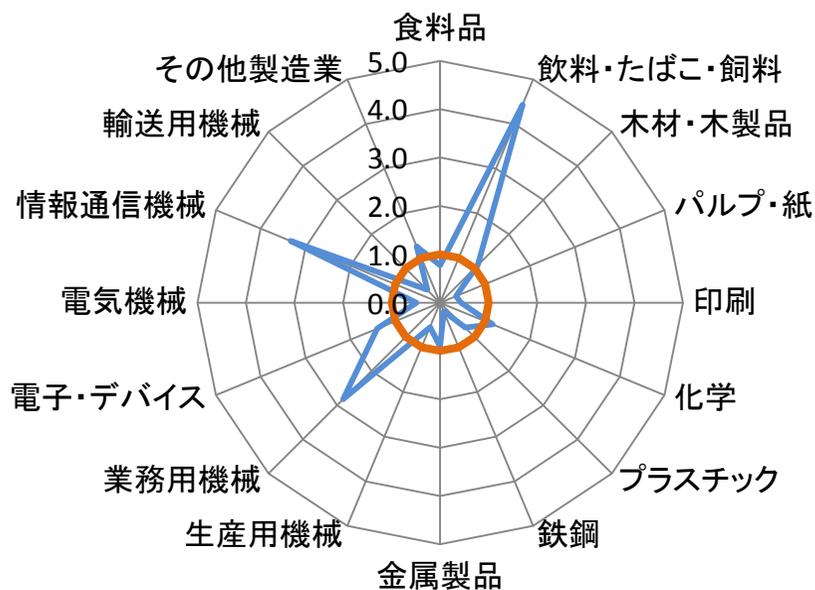
製造業付加価値額 特化係数
山形広域圏(全国=1)



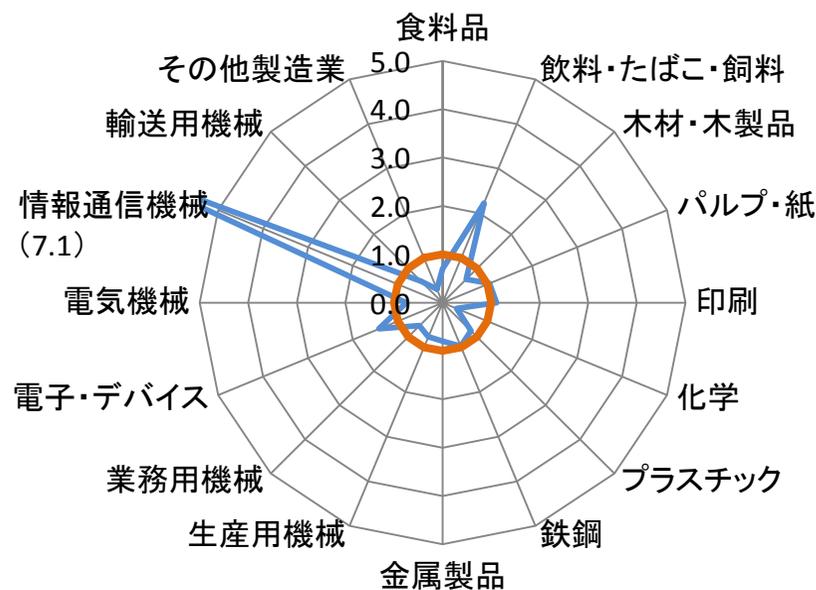
出典:「平成24年工業統計調査(工業地区編)」(経済産業省大臣官房調査統計グループ)より、当所作成

(1)他の東北広域圏との比較－製造業付加価値額の特化係数

製造業付加価値額 特化係数
郡山広域圏(全国=1)



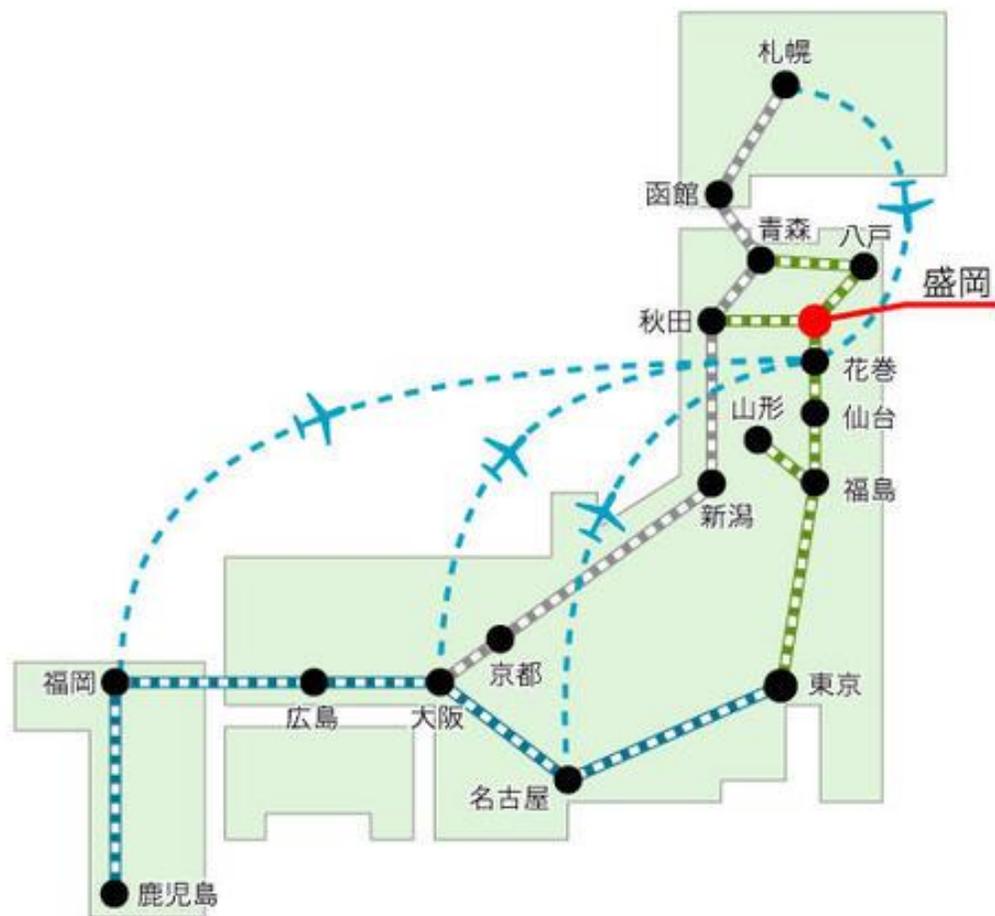
製造業付加価値額 特化係数
福島広域圏(全国=1)



出典:「平成24年工業統計調査(工業地区編)」(経済産業省大臣官房調査統計グループ)より、当所作成

(1) 他の東北広域圏との比較－交通拠点

当地域は、東北縦貫自動車道、国道4号・46号・106号などの広域幹線道路や東北新幹線、JR各線、IGRいわて銀河鉄道などにより、北東北の広域交通ネットワークの結節点としての役割を担っている



JR東日本の1日平均の駅別乗車人員

	乗車人員		
		うち定期外	うち新幹線
盛岡	18,440	9,161	7,611
青森	5,684	3,015	(注) —
八戸	4,488	3,160	3,313
弘前	4,641	2,045	—
秋田	11,346	5,158	—

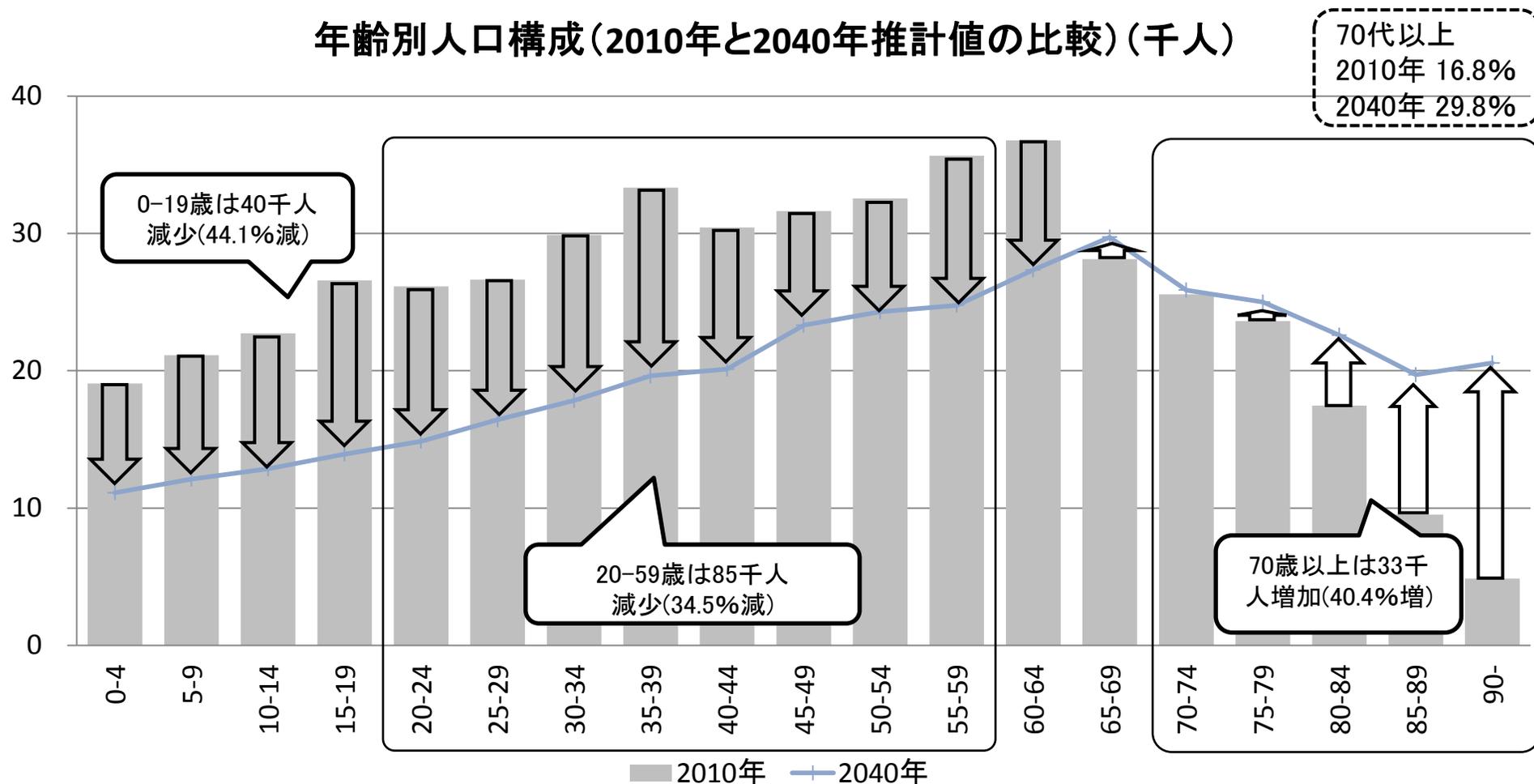
(注) 新青森駅の新幹線乗車人員は4,523人

出典：JR東日本HPより、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－2040年の推計値

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、盛岡広域圏では、今後はさらに若年層の減少が著しい

年齢別人口構成(2010年と2040年推計値の比較)(千人)

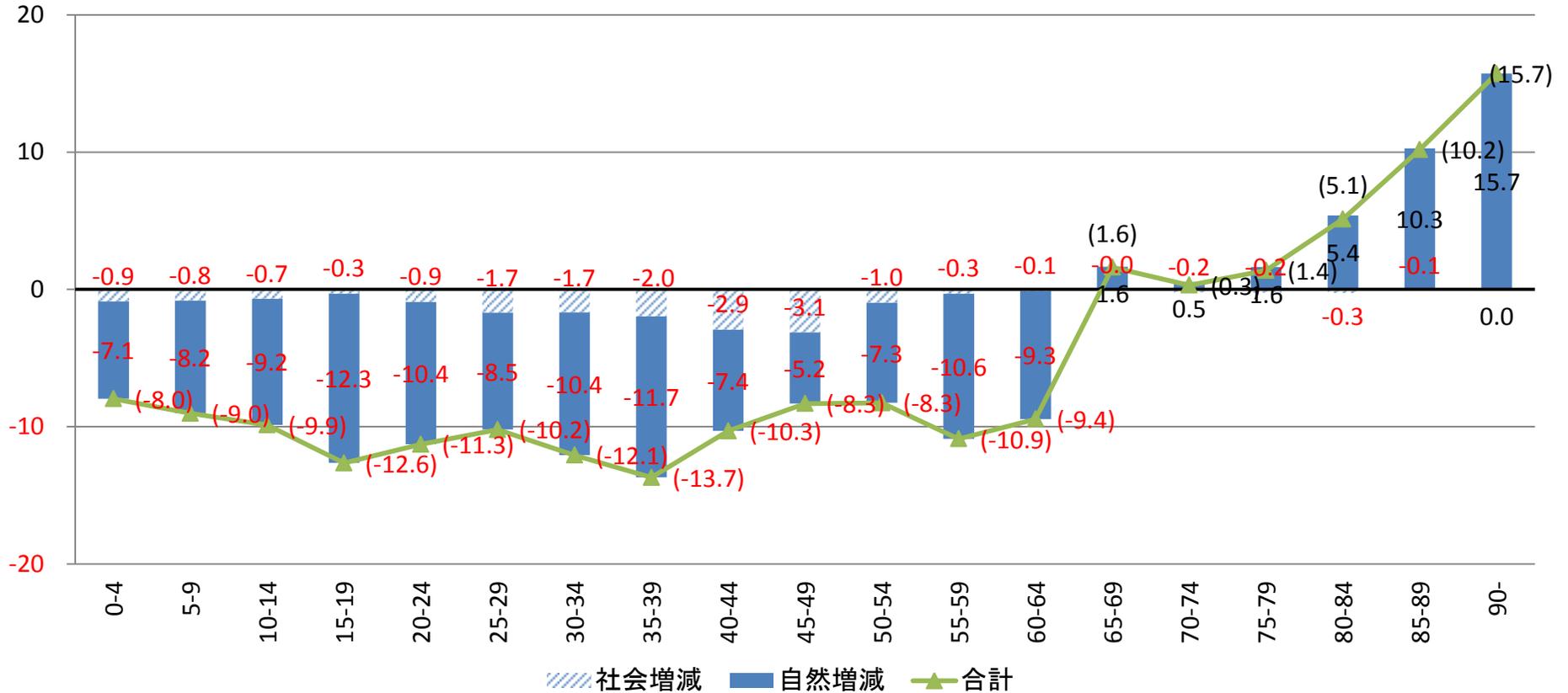


出典:「日本の地域別将来推計(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－変動要因

盛岡広域圏の人口変動は、自然増減に因るもの大きいですが、20～54歳では、社会減も相当部分を占める

人口の変動要因(2010年と2040年推計値の比較;千人)

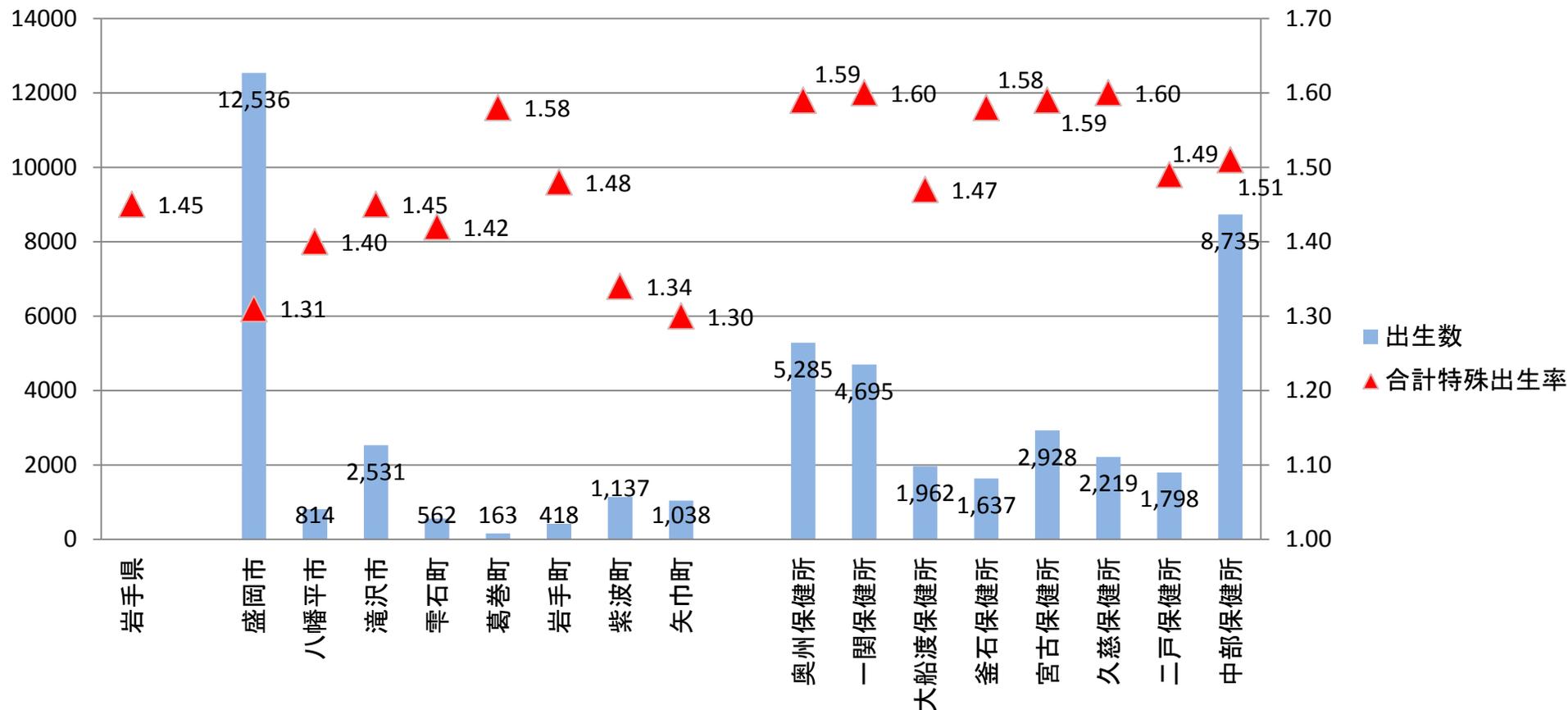


出典:「日本の地域別将来推計(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－出生数と出生率

盛岡広域圏の合計特殊出生率(2008～2012年)は、県内他地域より低いところが多く、全国平均(1.38)を下回っているところもある

出生数と合計特殊出生率



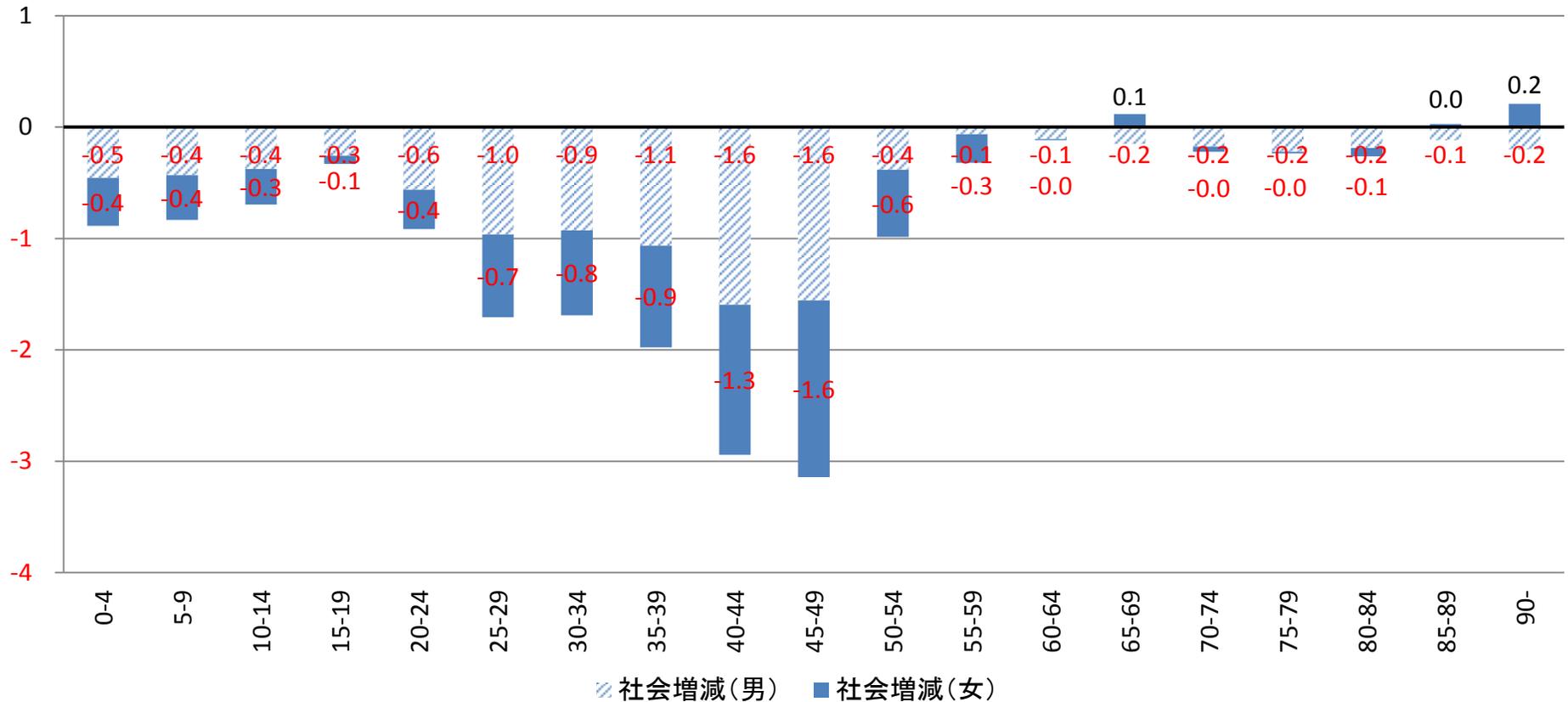
(注) 合計特殊出生率は、ベイズ推定値

出典:「人口動態保健所・市区町村別統計(平成20～24年)」(厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健社会統計課)より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－男女別社会増減

社会増減を男女別に見ると、男性の増減幅の方が大きいですが、その差は顕著なものではない

男女別社会増減(2010年と2040年推計値の比較;千人)

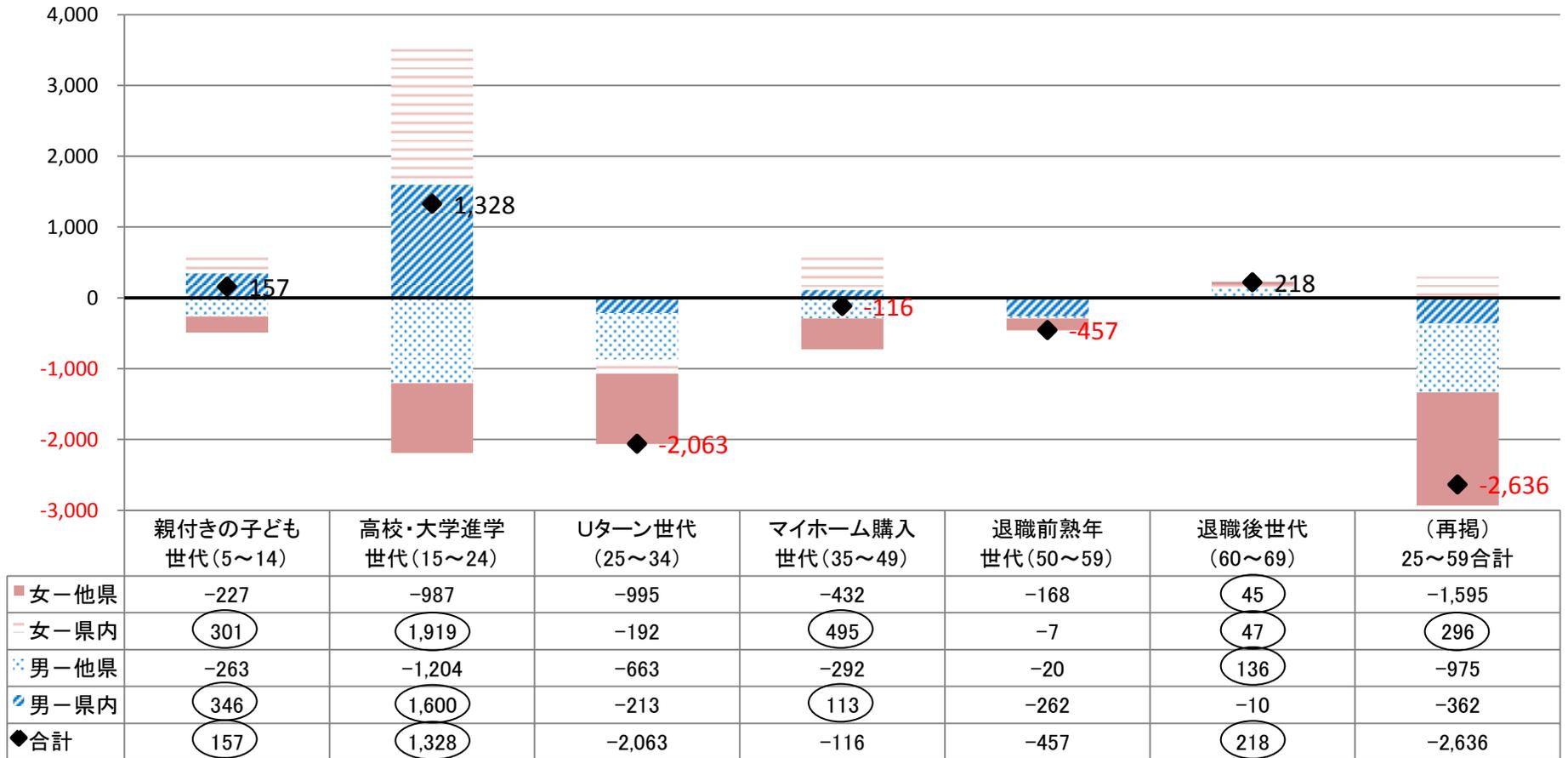


出典:「日本の地域別将来推計(平成25年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動一年齢別移動先別社会移動

盛岡広域圏の社会移動(2005→2010年)を年齢別移動先別(県内外別)に見ると、県外に対しては、男女とも一貫して流出、県内に対しては、女性は概ね流入、男性は進学世代に流入した後、流出に転じている

盛岡広域圏

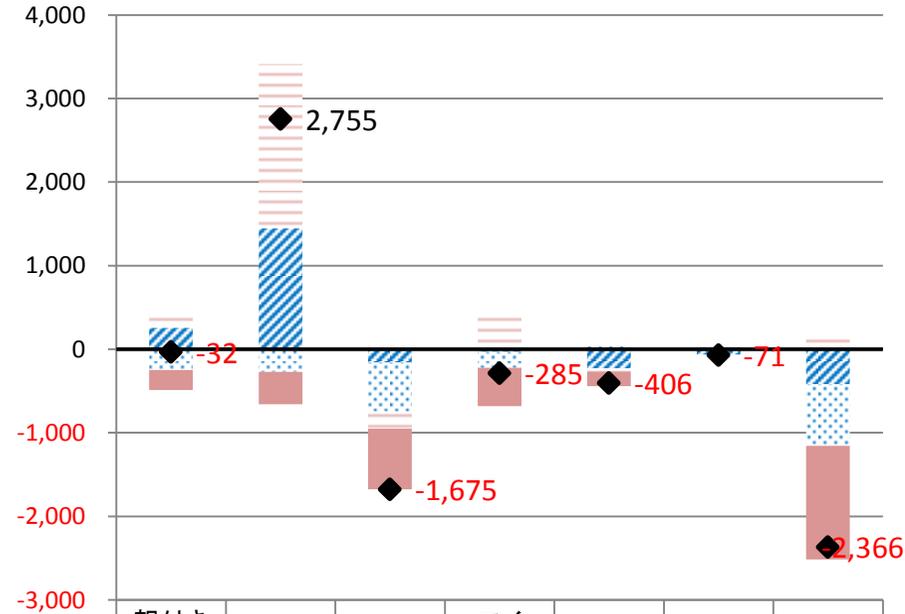


出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動一年齢別移動先別社会移動

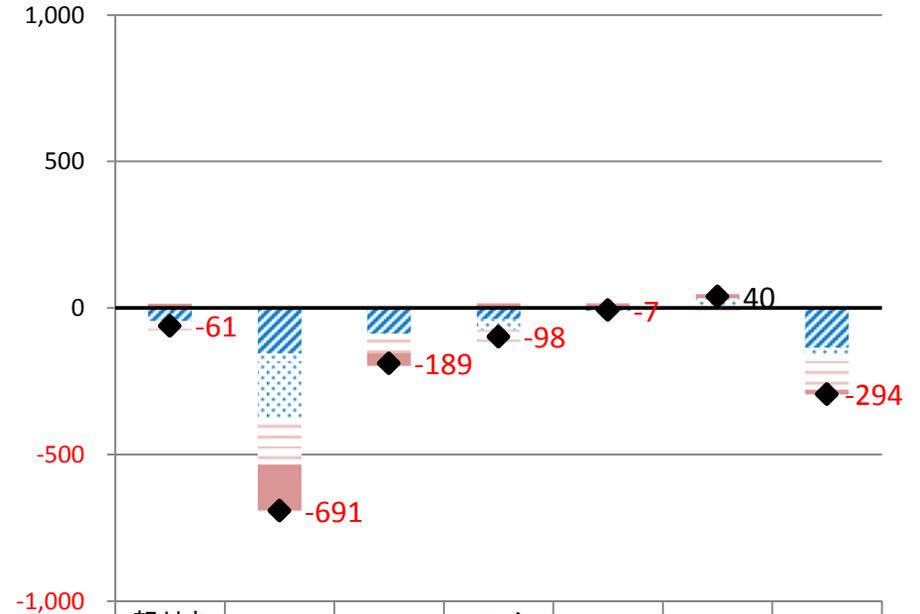
盛岡市は、盛岡広域圏とほぼ同様。八幡平市は、男女・県内外を問わず、ほぼ全世代にわたって流出

盛岡市



	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲)25~59合計
■ 女-他県	-237	-389	-724	-458	-177	6	-1,359
■ 女-県内	194	1,965	-208	394	-37	-31	149
■ 男-他県	-248	-268	-586	-189	35	20	-740
■ 男-県内	259	1,447	-157	-32	-227	-66	-416
◆ 合計	-32	2,755	-1,675	-285	-406	-71	-2,366

八幡平市



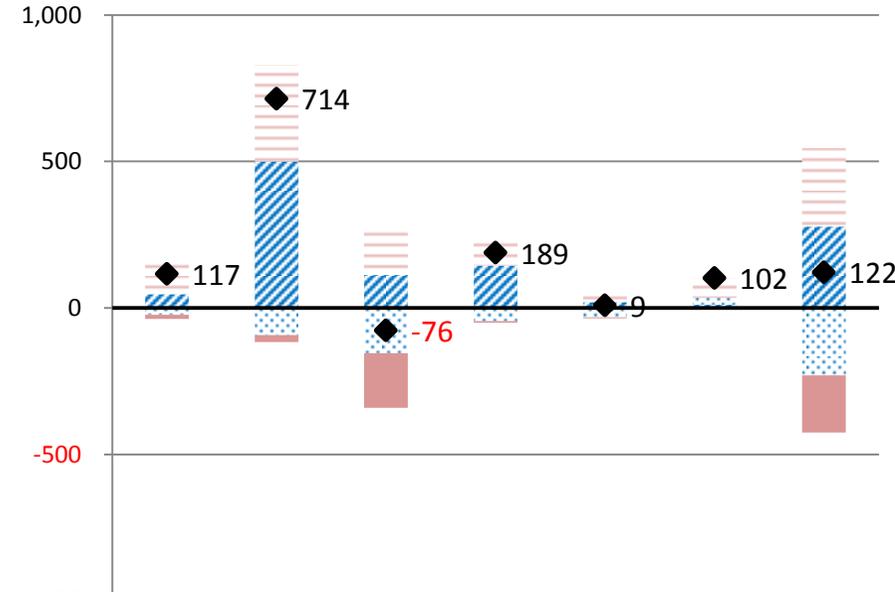
	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲)25~59合計
■ 女-他県	13	-157	-45	16	13	14	-16
■ 女-県内	-32	-155	-65	-40	-13	-8	-118
■ 男-他県	2	-225	8	-36	3	32	-25
■ 男-県内	-44	-154	-87	-38	-10	2	-135
◆ 合計	-61	-691	-189	-98	-7	40	-294

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動一年齢別移動先別社会移動

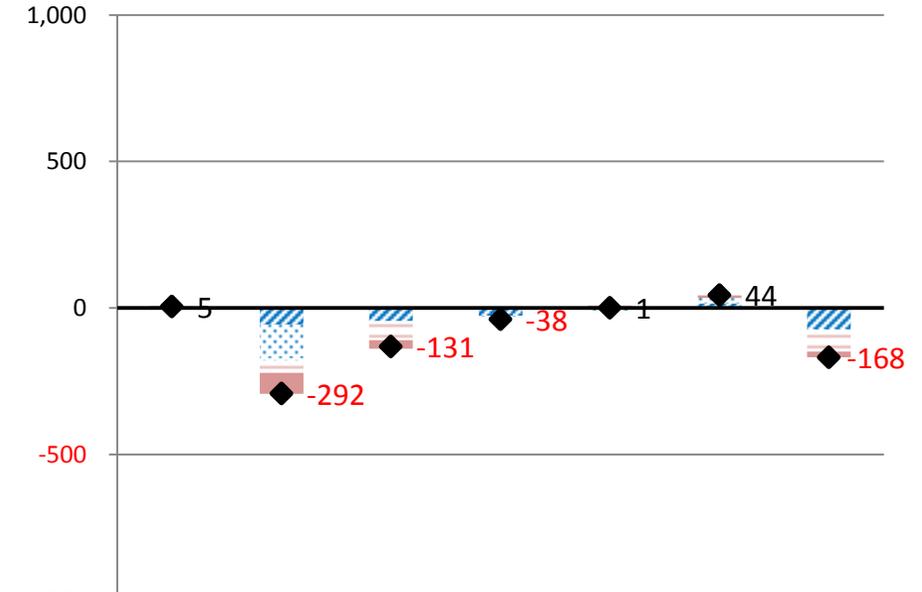
滝沢市は、県外に対しては、男女とも一貫して流出、県内に対しては、男女とも一貫して流入し、全体ではUターン世代以外は流入超。雫石町は、進学世代・就職期を中心に男女・県内外とも流出

滝沢市



	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲)25~59合計
■ 女-他県	-15	-24	-186	-6	-3	0	-195
■ 女-県内	106	330	151	94	22	67	267
■ 男-他県	-22	-92	-154	-44	-31	23	-229
■ 男-県内	48	500	113	145	21	12	279
◆ 合計	117	714	-76	189	9	102	122

雫石町



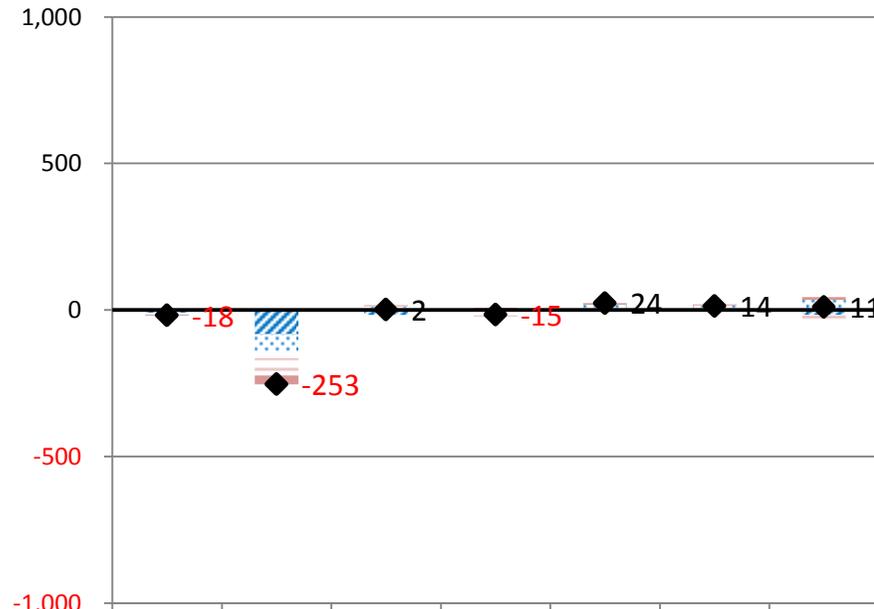
	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲)25~59合計
■ 女-他県	2	-71	-29	6	3	9	-20
■ 女-県内	2	-41	-65	-15	6	0	-74
■ 男-他県	3	-124	7	-3	-6	18	-2
■ 男-県内	-2	-56	-44	-26	-2	17	-72
◆ 合計	5	-292	-131	-38	1	44	-168

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動一年齢別移動先別社会移動

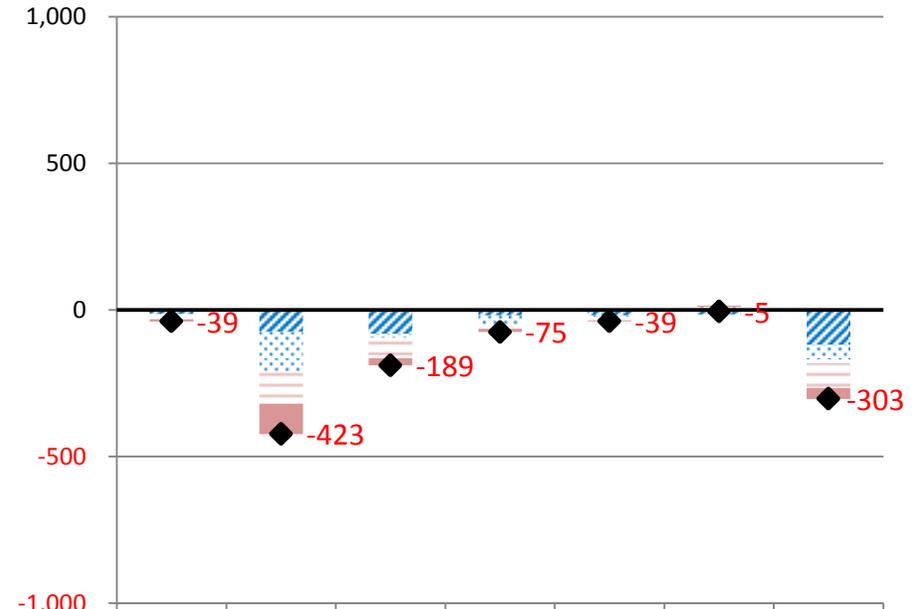
葛巻町は、進学世代に男女・県内外とも流出した後、県外からは男女とも流入。岩手町は、男女・県内外を問わず、全世代にわたって流出

葛巻町



	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲) 25~59 合計
■ 女-他県	-3	-30	2	3	5	3	10
■ 女-県内	-7	-79	4	-22	0	-6	-18
■ 男-他県	0	-62	12	5	18	11	35
■ 男-県内	-8	-82	-16	-1	1	6	-16
◆ 合計	-18	-253	2	-15	24	14	11

岩手町



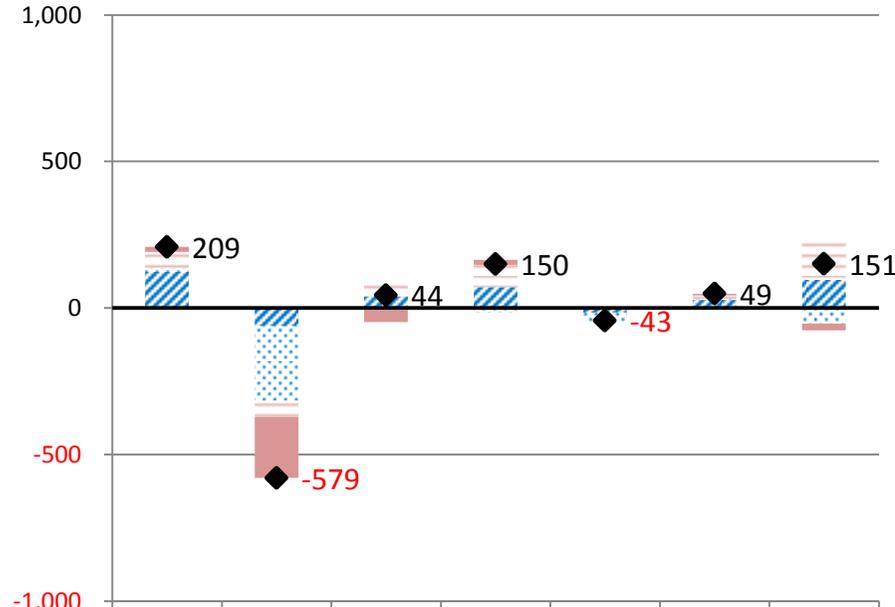
	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲) 25~59 合計
■ 女-他県	-7	-104	-24	-11	-2	4	-37
■ 女-県内	-17	-107	-70	-13	-14	-5	-97
■ 男-他県	-1	-137	-14	-32	-4	11	-50
■ 男-県内	-14	-75	-81	-19	-19	-15	-119
◆ 合計	-39	-423	-189	-75	-39	-5	-303

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動一年齢別移動先別社会移動

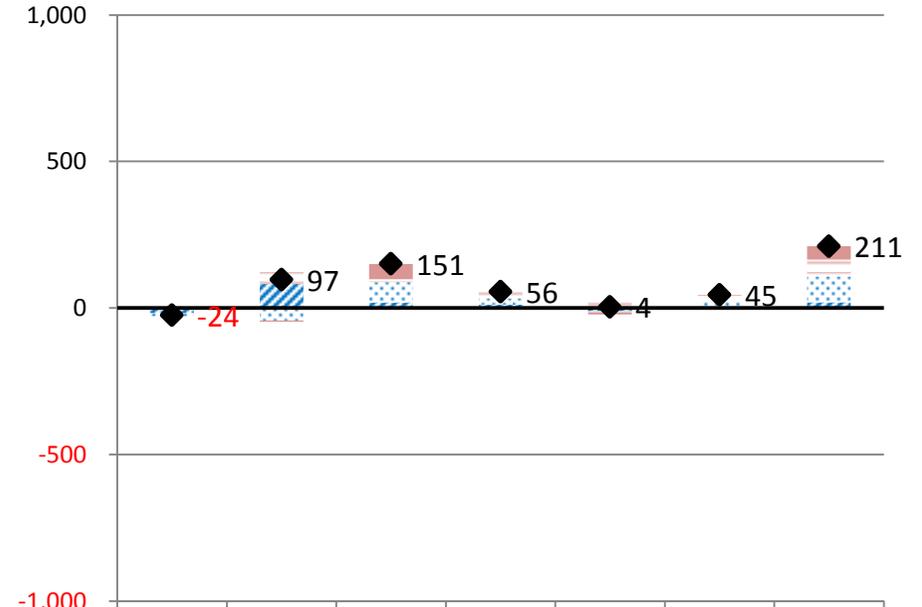
紫波町は、進学世代に男女・県内外とも流出した後、男女とも、概ね、県内からは流入、県外に対しては流出。矢巾町は、進学世代に県外への流出があるが、以降は男女・県内外とも流入

紫波町



	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲)25~59合計
■ 女-他県	17	-208	-41	18	0	6	-23
■ 女-県内	54	-55	51	75	4	11	130
■ 男-他県	14	-254	-6	-15	-32	4	-53
■ 男-県内	124	-62	40	72	-15	28	97
◆ 合計	209	-579	44	150	-43	49	151

矢巾町



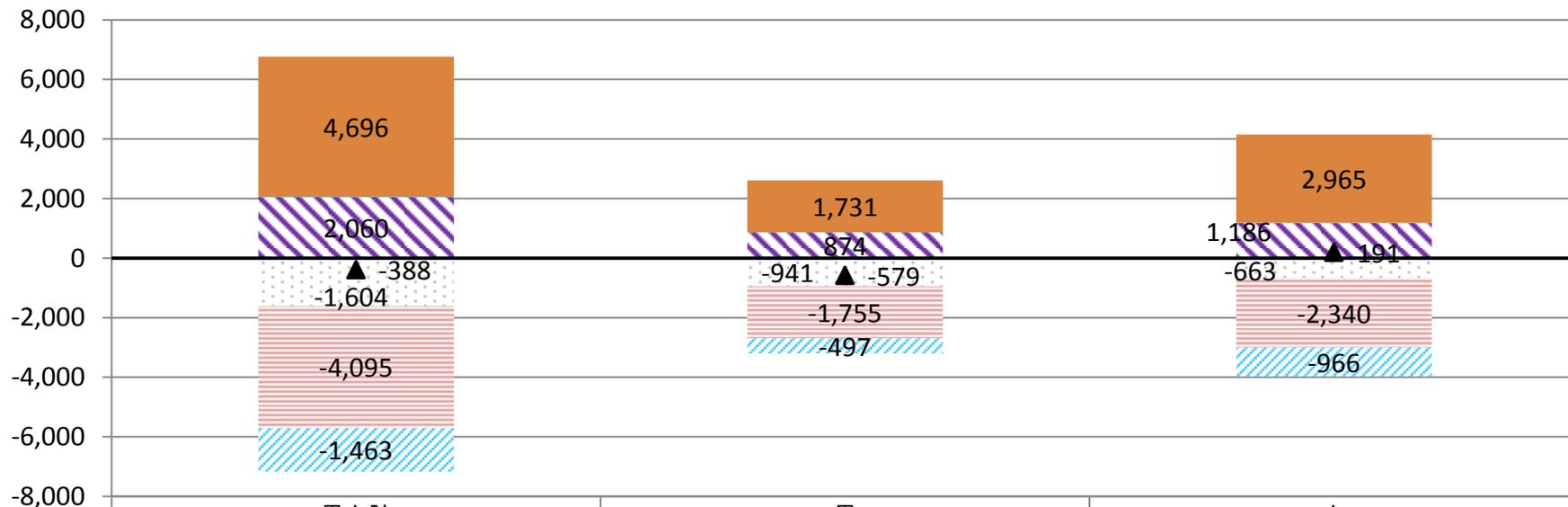
	親付きの子ども世代(5~14)	高校・大学進学世代(15~24)	Uターン世代(25~34)	マイホーム購入世代(35~49)	退職前熟年世代(50~59)	退職後世代(60~69)	(再掲)25~59合計
■ 女-他県	3	-4	52	0	-7	3	45
■ 女-県内	1	61	10	22	25	19	57
■ 男-他県	-11	-42	70	22	-3	17	89
■ 男-県内	-17	82	19	12	-11	6	20
◆ 合計	-24	97	151	56	4	45	211

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－移動地域別社会移動

盛岡広域圏の社会移動を移動地域別に見ると、男女とも、県内と青森・秋田両県から流入し、首都圏・宮城県に流出しており、また、増減数は、いずれも男性よりも女性の方が多(宮城県への流出は約2倍)

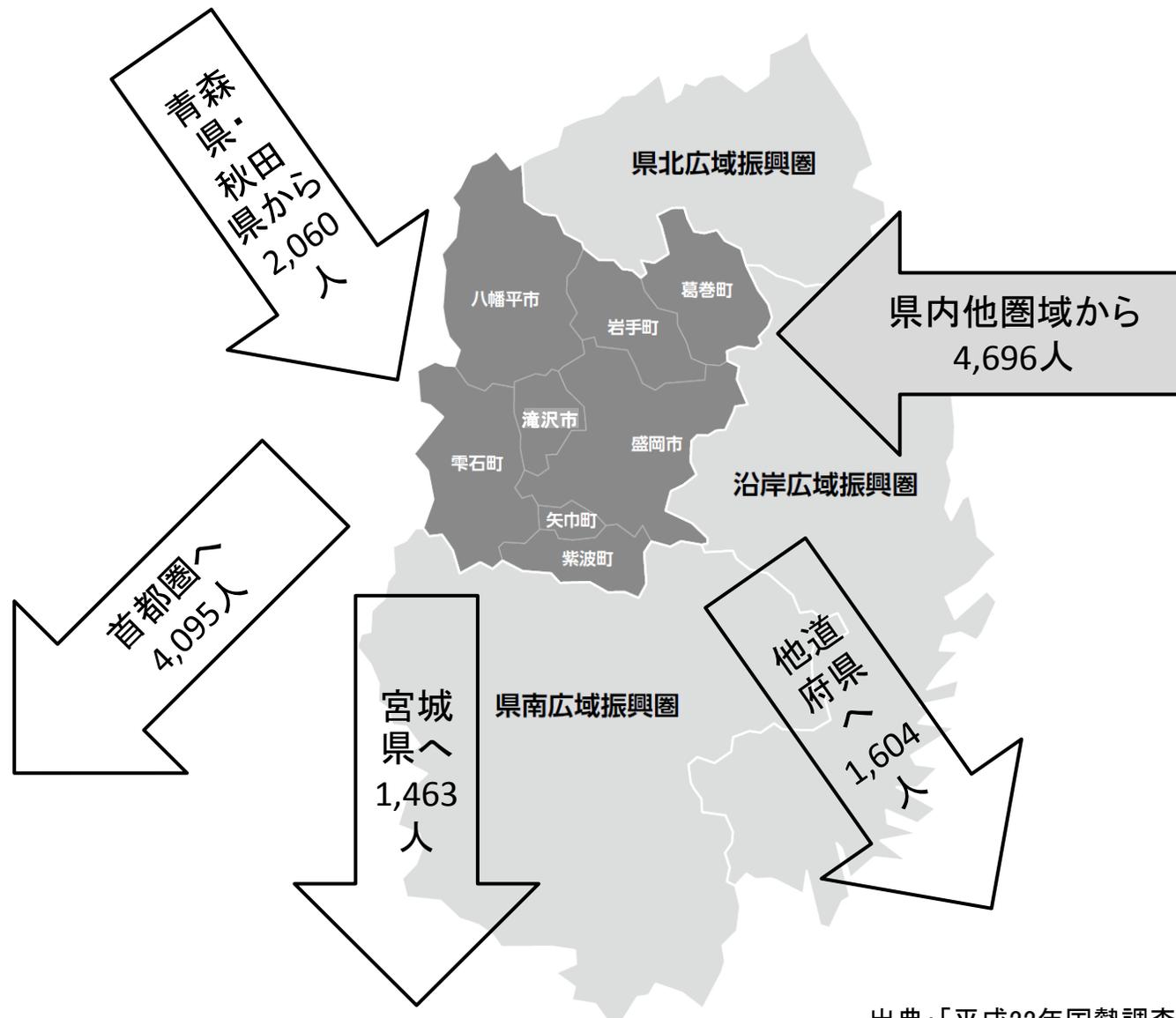
盛岡広域圏



	男女計	男	女
盛岡広域圏内	0	0	0
県内その他	4,696	1,731	2,965
県内不詳	18	9	9
青森県・秋田県	2,060	874	1,186
宮城県	-1,463	-497	-966
1都3県	-4,095	-1,755	-2,340
その他の道府県	-1,604	-941	-663
転出入計	-388	-579	191

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－移動地域別社会移動

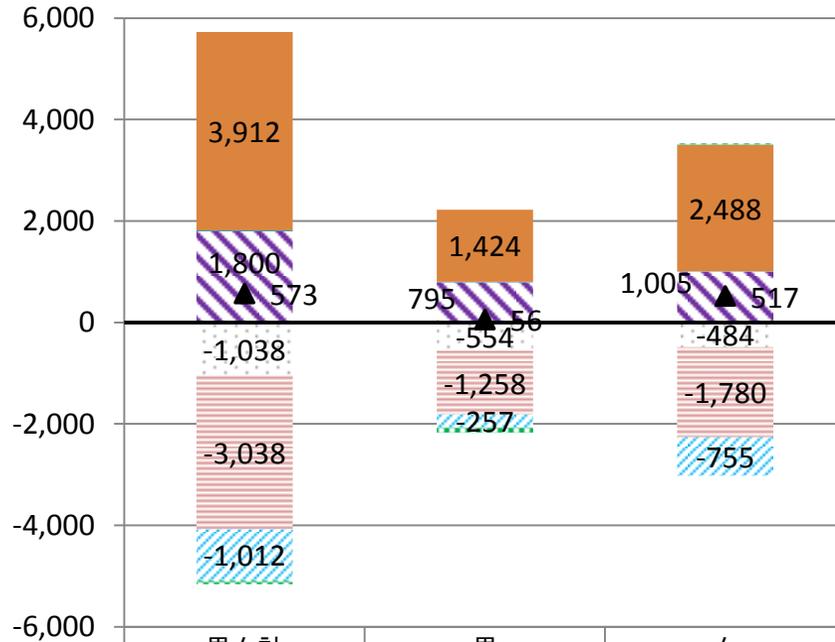


出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－移動地域別社会移動

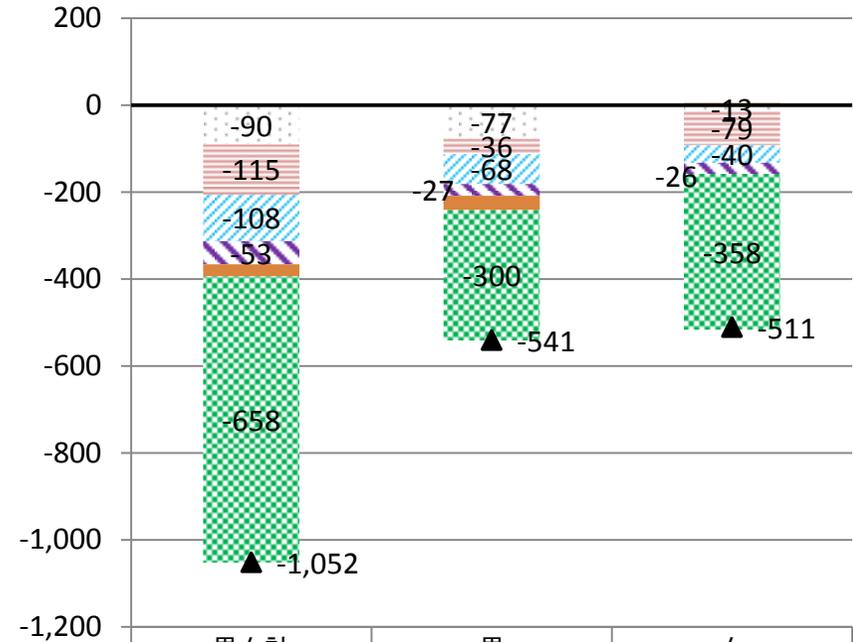
盛岡市は、広域圏全体と同様の動きであるが、県内各地との移動については、広域圏外からの流入が圧倒的に多い(広域圏内に対しては流出)。八幡平市は、広域圏内への流出が多い

盛岡市



	男女計	男	女
盛岡広域圏内	-68	-103	35
県内その他	3,912	1,424	2,488
県内不詳	17	9	8
青森県・秋田県	1,800	795	1,005
宮城県	-1,012	-257	-755
1都3県	-3,038	-1,258	-1,780
その他の道府県	-1,038	-554	-484
転出入計	573	56	517

八幡平市



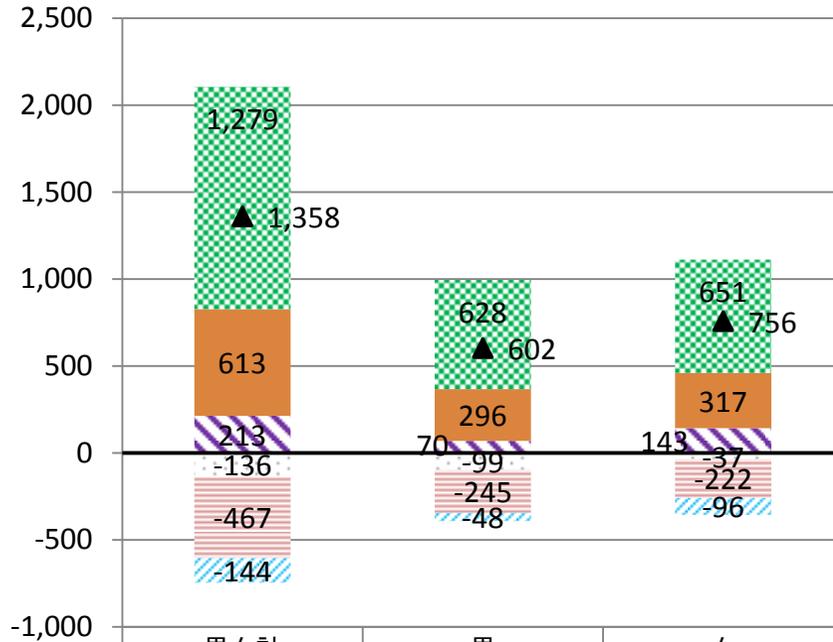
	男女計	男	女
盛岡広域圏内	-658	-300	-358
県内その他	-28	-33	5
県内不詳	0	0	0
青森県・秋田県	-53	-27	-26
宮城県	-108	-68	-40
1都3県	-115	-36	-79
その他の道府県	-90	-77	-13
転出入計	-1,052	-541	-511

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－移動地域別社会移動

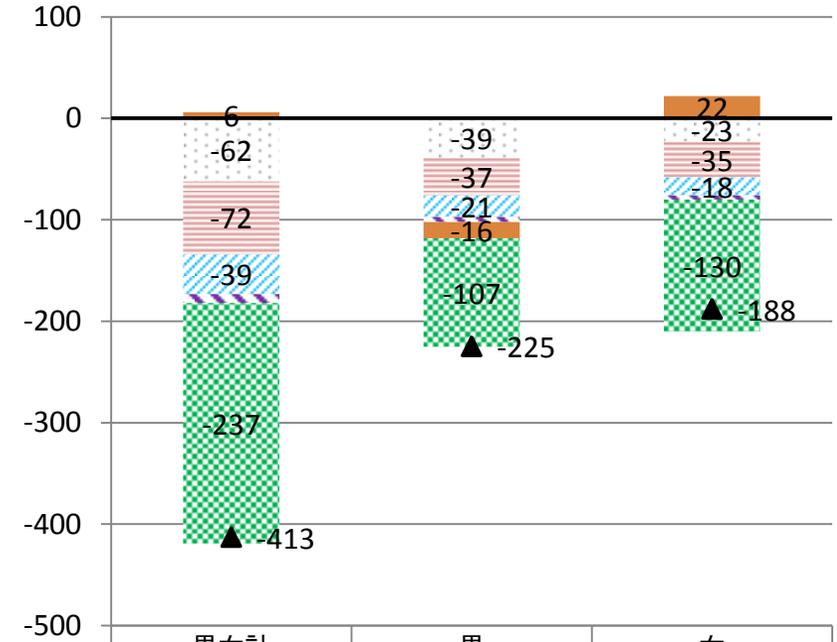
滝沢市は、広域圏全体と同様の動きであるが、県内各地との動きでは、盛岡市とは対照的に広域圏内からの流入が多い。雫石町は、広域圏内への流出が多いが、広域圏外の県内の女性については流入超

滝沢市



	男女計	男	女
盛岡広域圏内	1,279	628	651
県内その他	613	296	317
県内不詳	0	0	0
青森県・秋田県	213	70	143
宮城県	-144	-48	-96
1都3県	-467	-245	-222
その他の道府県	-136	-99	-37
転出入計	1,358	602	756

雫石町



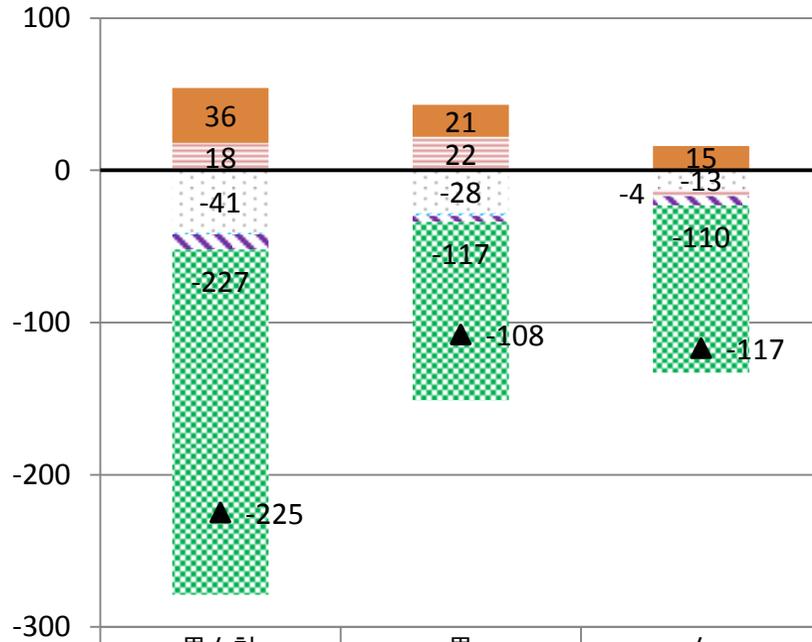
	男女計	男	女
盛岡広域圏内	-237	-107	-130
県内その他	6	-16	22
県内不詳	0	0	0
青森県・秋田県	-9	-5	-4
宮城県	-39	-21	-18
1都3県	-72	-37	-35
その他の道府県	-62	-39	-23
転出入計	-413	-225	-188

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－移動地域別社会移動

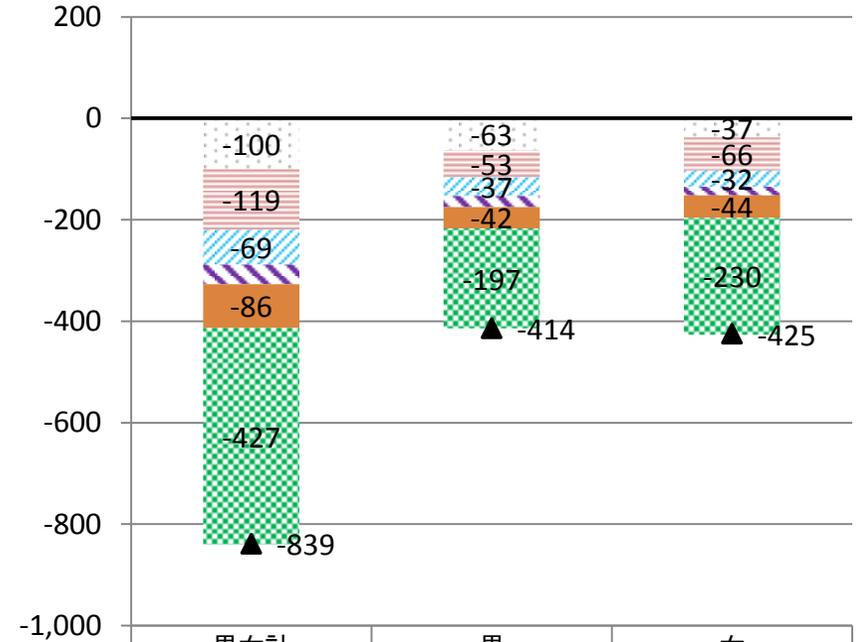
葛巻町は、広域圏内への流出が多いが、広域圏外の県内や首都圏から流入（首都圏からの流入は圏内で唯一）。岩手町は、広域圏内を中心に全地域に対して男女とも流出

葛巻町



	男女計	男	女
盛岡広域圏内	-227	-117	-110
県内その他	36	21	15
県内不詳	0	0	0
青森県・秋田県	-10	-4	-6
宮城県	-1	-2	1
1都3県	18	22	-4
その他の道府県	-41	-28	-13
▲転出入計	-225	-108	-117

岩手町



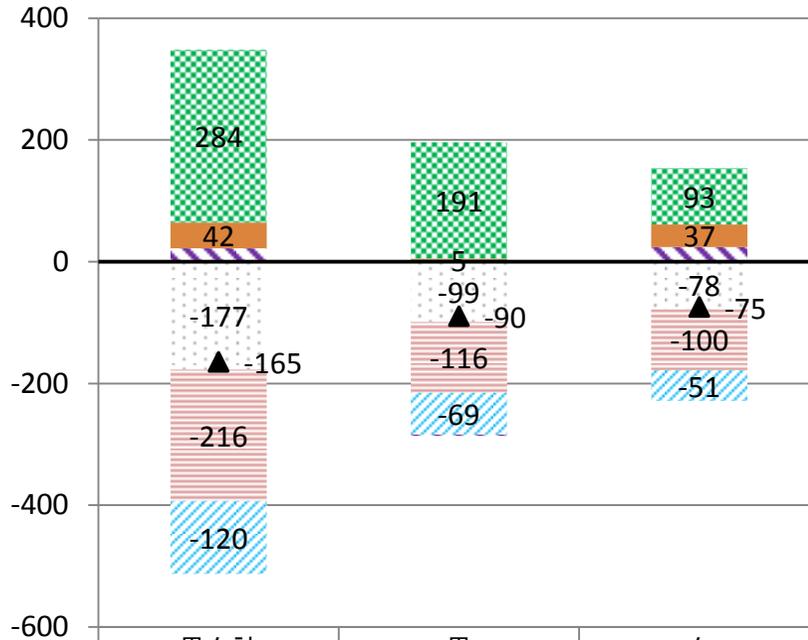
	男女計	男	女
盛岡広域圏内	-427	-197	-230
県内その他	-86	-42	-44
県内不詳	1	0	1
青森県・秋田県	-39	-22	-17
宮城県	-69	-37	-32
1都3県	-119	-53	-66
その他の道府県	-100	-63	-37
▲転出入計	-839	-414	-425

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(2) 盛岡広域圏の人口移動－移動地域別社会移動

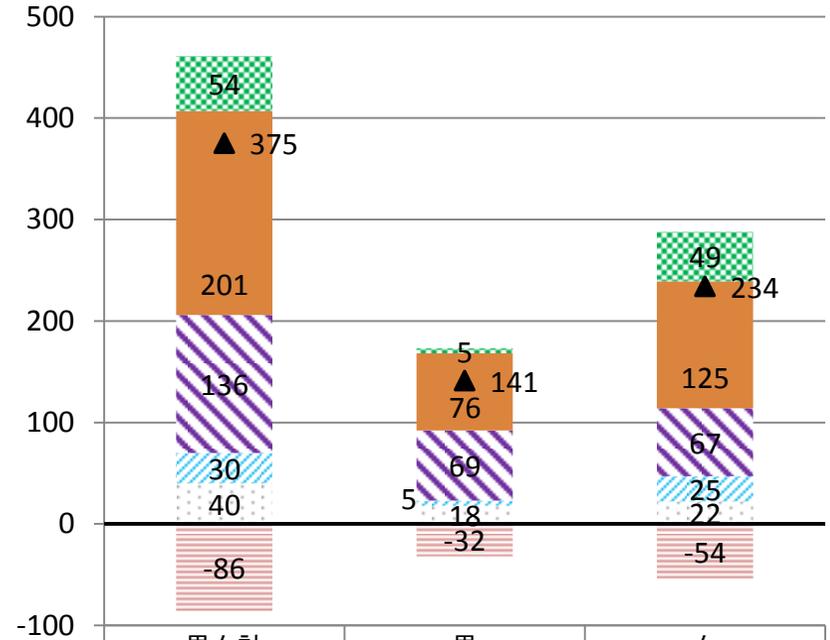
紫波町は、広域圏内を中心に県内から流入しているが、首都圏や宮城県に対しては流出(全体でも流出)。矢巾町は、首都圏以外の全地域から流入しているが、広域圏内からの流入は比較的少ない

紫波町



	男女計	男	女
盛岡広域圏内	284	191	93
県内その他	42	5	37
県内不詳	0	0	0
青森県・秋田県	22	-2	24
宮城県	-120	-69	-51
1都3県	-216	-116	-100
その他の道府県	-177	-99	-78
▲転出入計	-165	-90	-75

矢巾町



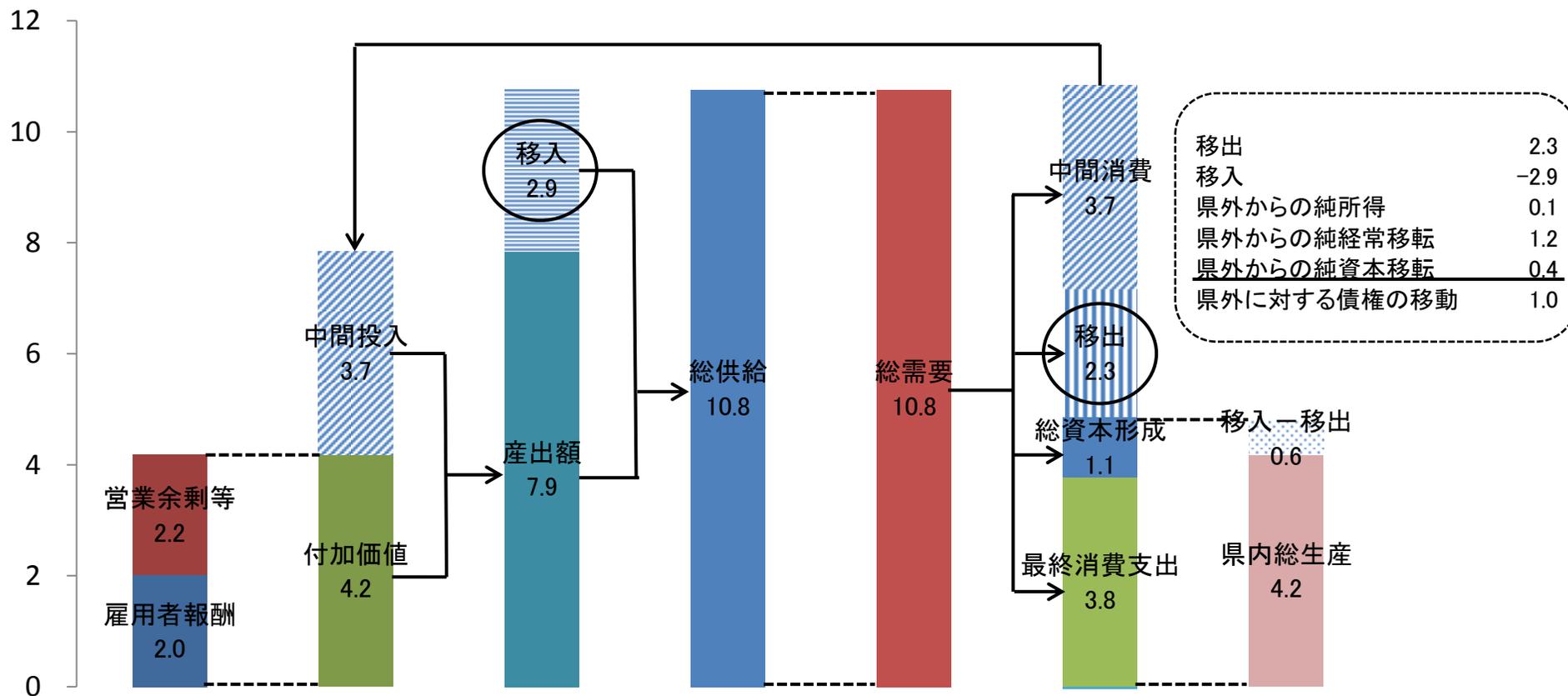
	男女計	男	女
盛岡広域圏内	54	5	49
県内その他	201	76	125
県内不詳	0	0	0
青森県・秋田県	136	69	67
宮城県	30	5	25
1都3県	-86	-32	-54
その他の道府県	40	18	22
▲転出入計	375	141	234

出典:「平成22年国勢調査」より、当所作成

(3) 財・サービスの流れー県民経済計算

岩手県の財・サービスの流れを県民経済計算から見ると、下図の通り。移入超過(赤字)となっており、その分は県外からの経常移転(地方交付税交付金等)などで賄われている

県民経済計算から見た財・サービスの流れ
【岩手県】(2011年;兆円)



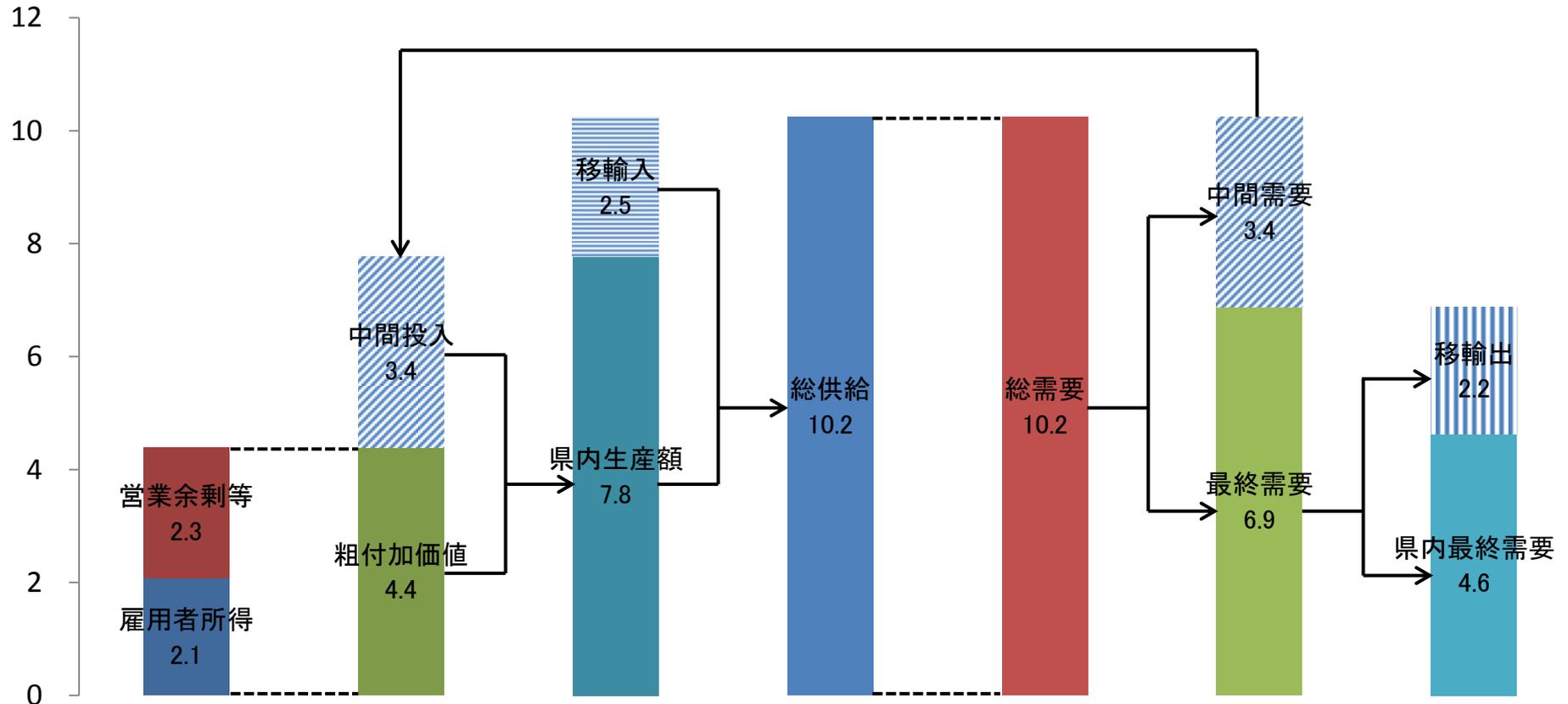
(注) 四捨五入の関係上、内訳項目を合計したものは、総額と一致しない

出典:「平成23年度岩手県県民経済計算の概要(平成25年5月)」
岩手県政策地域部調査統計課より、当所作成

(3) 財・サービスの流れー産業連関表(岩手県)

産業連関表から見ても、県民経済計算と同様

産業連関表から見た財・サービスの流れ
【岩手県】(2009年;兆円)

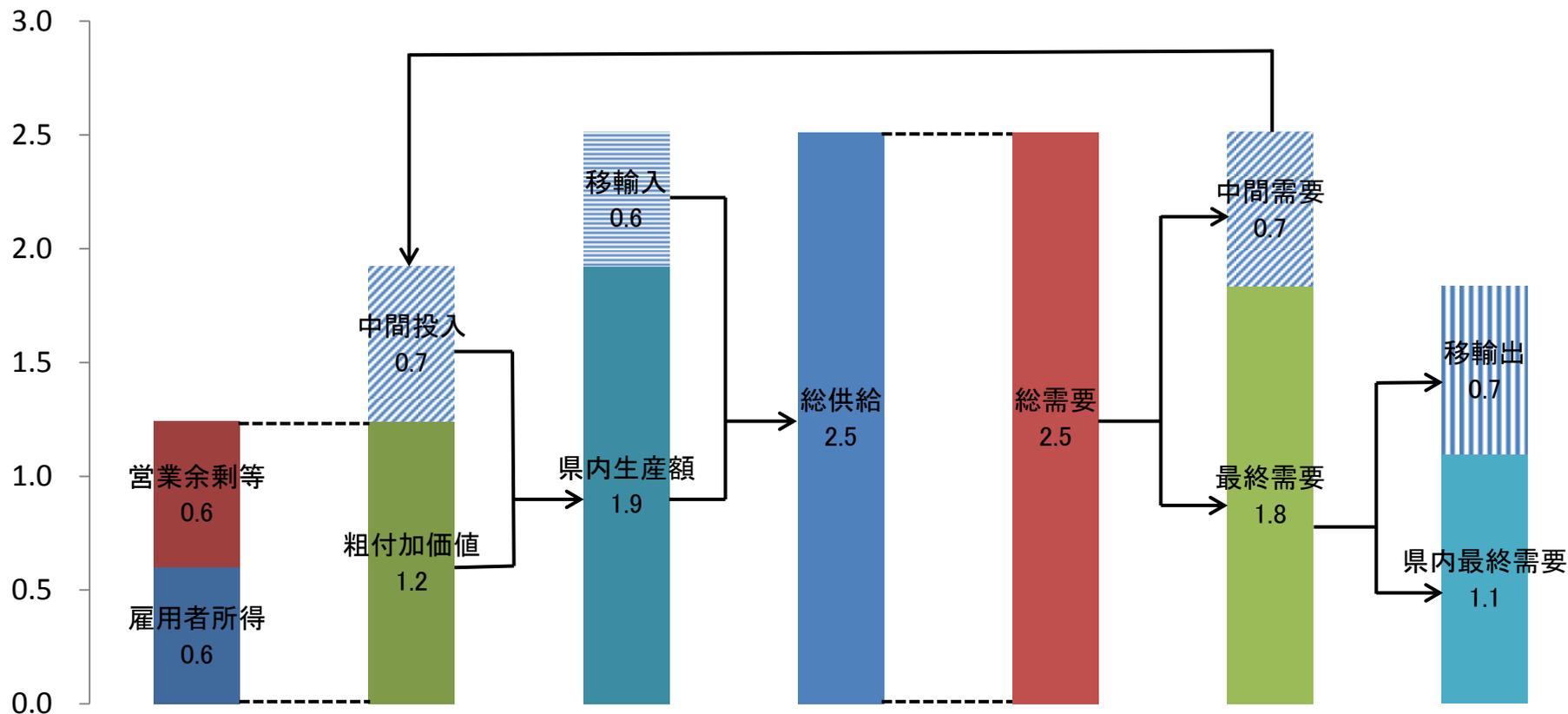


出典:「平成21年岩手県産業連関表(平成25年5月)」岩手県政策地域部調査統計課より、当所作成

(3) 財・サービスの流れー産業連関表(盛岡市)

盛岡広域圏で同様の統計はないが、盛岡市が試算した2000年の産業連関表から見ると、下図の通り。盛岡市単独では、移出超過(黒字)となっている

産業連関表から見た財・サービスの流れ
【盛岡市】(2000年;兆円)

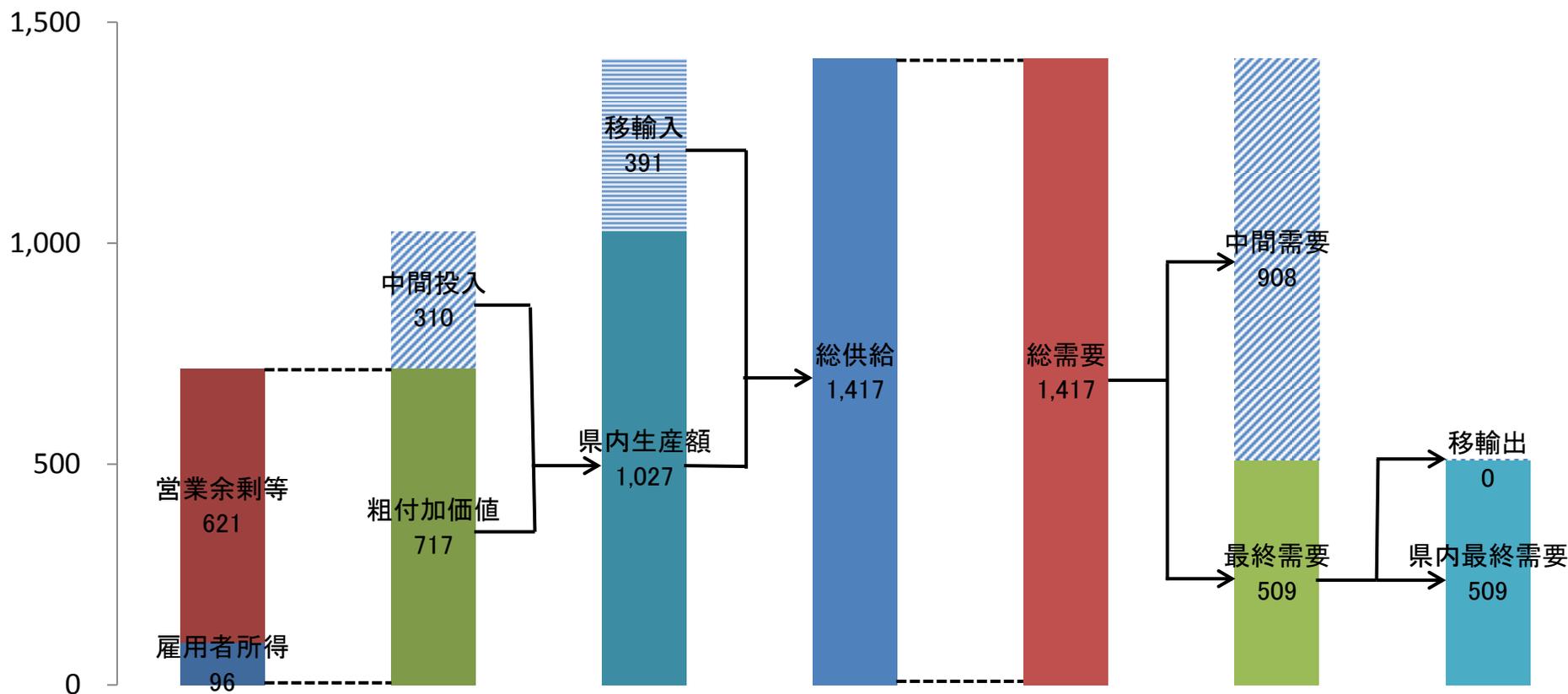


出典:「平成21年度研究報告書(平成22年3月)」盛岡市まちづくり研究所より、当所作成

(4) エネルギーの流れー産業連関表(岩手県)

財・サービスの流れと同様に、岩手県のエネルギー(電力・ガス・熱供給)の流れを産業連関表から見ると、下図の通り。総需要の3割弱を県外からの移輸入に依存している

産業連関表から見たエネルギーの流れ
【岩手県】(2009年; 億円)



出典:「平成21年岩手県産業連関表(平成25年5月)」岩手県政策地域部調査統計課より、当所作成

(3)財・サービスの流れ－用語解説

産業連関表等について

産業連関表	ある1年間に県内で、各産業が原材料や労働力を投入して、財・サービスをどれだけ生産したか、また、生産された財・サービスが、産業の中間需要や、消費、投資等の最終需要部門にどれだけ使用されたかを、全産業について把握して、行列形式で一覧表にしたもの。 産業連関表自体が経済取引の実態を明らかにした統計表であり、県経済の構造分析をすることができるが、この表から得られた係数を利用して、公共投資や各種イベント等の経済波及効果分析をすることもできる。
県内生産額	県内の各産業の生産活動によって生み出された財・サービスの生産額をいう。
中間投入	各産業の生産活動に必要な原材料、燃料、サービス等の購入費用をいう。
粗付加価値	各産業の生産活動によって新たに付け加えられた価値をいい、中間投入に粗付加価値を加えたものが県内生産額となる。 粗付加価値は、雇用者所得、営業余剰等から構成される。
総供給	県内生産額に移輸入を加えたもので、総需要と等しい。
総需要	中間需要に最終需要を加えたもので、総供給と等しい。
中間需要	各産業部門が生産した財・サービスのうち、各産業にその生産活動のための原材料等として産出(販売)した分であり、その総和は中間投入の総和と等しい。
最終需要	県内最終需要(消費支出、県内総資本形成)及び移輸出からなる。

(出典)「平成21年(2009年)岩手県産業連関表及び雇用表からみた本県経済の概要」岩手県政策地域部調査統計課(平成25年5月)

(4) エネルギーの流れー再生可能エネルギーー

再生可能エネルギーによるエネルギー自給率(民生用・農林水産業用)を見ると、岩手県は、全国で第7位と上位に位置する。また、市町村別では、雫石町・葛巻町・八幡平市が県内の上位3位までを占める

都道府県別自給率ランキング(2012年3月末時点)

順位	都道府県	自給率 (%)	太陽光発電	風力発電	地熱発電	小水力発電	バイオマス発電	太陽熱利用	地熱利用	バイオマス熱利用
1	大分県	22.9	7	25	1	9	3	4	1	37
2	秋田県	18.5	47	3	2	3	9	40	4	3
3	富山県	16.6	38	29	9	1	21	42	14	34
4	長野県	13.8	4	38	9	2	23	12	6	27
5	青森県	13.7	45	1	9	15	33	44	2	22
6	鹿児島県	11.3	15	4	4	21	19	10	3	13
7	岩手県	11.2	34	13	3	14	26	33	8	2
8	島根県	10.0	26	2	9	11	17	13	25	32
9	福島県	9.5	31	8	5	10	10	31	10	15
10	鳥取県	9.2	32	9	9	5	33	9	11	18

市町村別自給率ランキング(2012年3月末時点)

市町村	自給率 (%)	県内順位	全国順位
雫石町	206.92	1	19
葛巻町	114.14	2	45
八幡平市	96.91	3	54
岩泉町	68.03	4	N.A.
大槌町	31.49	5	N.A.
紫波町	3.89	17	N.A.
盛岡市	2.80	19	N.A.

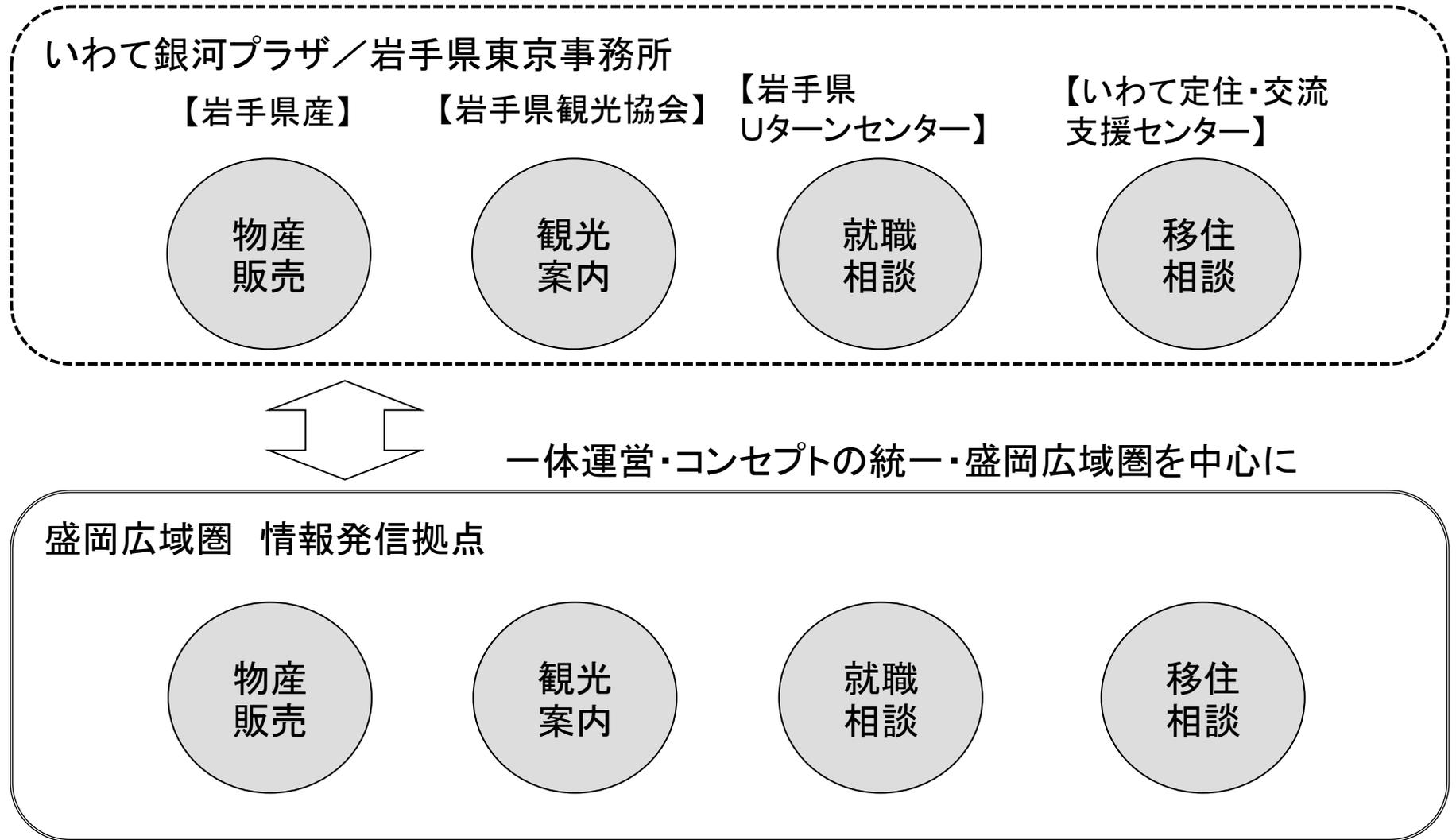
(注) 自給率 = その区域での再生可能エネルギー供給量 / その区域の民生用(家庭用・業務用)・農林水産業用エネルギー需要量

(出典)「永続地帯2013年版報告書」(千葉大学倉阪研究室、特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所)より、当所作成

3. 今後強化又は新たに取り組むべき方向性

(1) 具体的な施策の方向性－物産・観光・雇用・移住の一体的推進

盛岡広域圏の情報発信拠点を東京に設置し、物産・観光・雇用・移住に関する機能を一体的に持たせることが考えられる



(1) 具体的な施策の方向性－物産・観光・雇用・移住の一体的推進

同様のことを実施している施設として、長野県が銀座に設置した「銀座NAGANO」がある

信州首都圏総合活動拠点「銀座NAGANO～しあわせ信州シェアスペース～」の概要

開設：2014年10月

場所：東京都中央区銀座5-6-5(地下鉄銀座駅徒歩1分、JR有楽町駅徒歩7分)

設置者：長野県

賃借面積：394㎡

目的：信州ブランド戦略の一環として、信州ファンの裾野を広げ、更に継続的かつ双方向で信州との関わりを持つコアな信州ファンを増やすため、信州の魅力をまるごと共有(シェア)するオール信州活動拠点を整備するもの

拠点のコンセプト：

- ・「フェア」ではなく、「シェア」
＝単なる催事の場所ではなく、信州の営みを共有する場に
- ・「伝える」だけではなく、「つながる」
＝一方向で伝えるのではなく、双方向・継続的に関係性を作る場に
- ・「観光地」ではなく、「関係地」
＝一過性の観光地ではなく、「コト」「ヒト」「モノ」を通じ、繰り返し訪れていただく目的地に

信州の古民家の雰囲気再現
陳列棚は、長野県産のカラマツ材を使用



(当所撮影)

(1) 具体的な施策の方向性－物産・観光・雇用・移住の一体的推進

1F…信州の上質で健康な暮らしを身近に感じていただける各種商品を取り揃えたショップスペース

運営主体:(一社)信州・長野県観光協会

2F…味わうこと学ぶことでより深く信州を体感できるイベントスペース & 信州への旅をサポートする観光インフォメーションコーナー

運営主体:長野県、(一社)信州・長野県観光協会

4F…信州での起業やビジネスマッチングなどに活用できるワーキングスペース&移住や就職の相談コーナー

運営主体:長野県

1F



2F



4F



(1) 具体的な施策の方向性－物産・観光・雇用・移住の一体的推進

市町村が設置しているアンテナショップや、自治体が連携しているものは少なく、市町が共同で設置すれば先駆的な取組となる

【市町村が設置しているアンテナショップの例】

<市町村が単独で設置しているもの>

市町村名	ショップ名	所在地
北海道函館市	函館市アンテナショップ「函館もってきました。」	東京都中央区
北海道旭川市	旭川市アンテナショップ	東京都新宿区
北海道美瑛町	北海道美瑛町アンテナショップ「丘のまち美瑛」	東京都千代田区
京都市	「京都館」	東京都中央区
兵庫県豊岡市	「コウノトリの恵み 豊岡」	東京都千代田区

<姉妹都市・友好都市等に当該自治体と共同で設置しているもの>

市町村名	ショップ名	所在地
長野県木島平村	調布&木島平 食の駅「新鮮屋」	東京都調布市
長野県大町市	立川市・大町市観光情報プラザ「信濃大町アルプスプラザ」	東京都立川市
長野県富士見町	東京都多摩市&長野県富士見町 共同アンテナショップ「Ponte」	東京都多摩市
福島県喜多方市	なかの里・まちアンテナショップ「田舎のばあちゃんからのおすそわけ」	東京都中野区
千葉県館山市		
茨城県常陸太田市		
山梨県甲州市		

【県が連携して設置しているアンテナショップの例】

市町村名	ショップ名	所在地
北東北3県	「きた東北発見プラザJENGO」	大阪市中央区
同上	「みちのく夢プラザ」	福岡市中央区
鳥取県・岡山県	とっとり・おかやま 新橋館	東京都港区
徳島県・香川県	ふるさと物産館「徳島・香川 トモニ市場」	東京都千代田区
香川県・愛媛県	「香川・愛媛 せとうち旬彩館」	東京都港区

(1) 具体的な施策の方向性－物産・観光・雇用・移住の一体的推進

なお、盛岡市が東京に設置している情報拠点としては「岩手もりおか復興ステーション」がある

「岩手もりおか復興ステーション」の概要

開設：2012年10月

場所：東京都千代田区飯田橋2-15-3

(地下鉄九段下駅徒歩3分、JR飯田橋駅徒歩5分)

設置者：盛岡市

運営者：(一社)SAVE IWATE

目的：

- ・東日本大震災の記憶の風化を防ぐこと
- ・息の長い支援の必要性を訴えていくこと

事業内容：

- ・岩手の復興に関する情報発信
- ・岩手の復興支援物産品販売
- ・首都圏の企業・地域との支援マッチング
- ・岩手県復興支援に関するボランティア活動の案内
- ・岩手の観光・復興ツーリズムの企画・提案
- ・岩手の食を通じたコミュニティサロンの開催

→ 広域圏に拡大

物産・観光・雇用・移住の一体的な拠点に



(2) 具体的な施策の方向性－男女共同参画センターの広域活用

女性の活躍を一層、促進するため、盛岡市が設置している男女共同参画センター「もりおか女性センター」を広域圏域内の住民が利用できるようにすることが考えられる

- 男女共同参画センターについては、男女共同参画会議「地域経済の活性化に向けた女性の活躍促進について」(平成26年4月 基本問題・影響調査専門委員会)において、「男女共同参画社会の実現に向けた活動拠点としての取組を強化することが必要である」とされており、「地域における女性の活躍推進の人材発掘・育成の拠点として、企業や地域経済団体、地域金融機関、農林水産団体等において女性の活躍を推進するキーパーソンの育成、これから企業等の管理職となる女性リーダーの育成、女性のニーズに着目した起業家支援等を行う」こと等の具体的取組が求められているところ
- 盛岡広域圏の各市町においては、男女共同参画計画については、いずれも策定されているものの、男女共同参画センターについては、盛岡市のみが設置している

男女共同参画計画の策定状況・男女共同参画センターの設置状況

市町名	男女共同参画計画		男女共同参画センター	備考
	計画名	計画期間		
盛岡市	盛岡市男女共同参画計画～新なはんプラン～	平成17～26年度	もりおか女性センター	
八幡平市	八幡平市男女共同参画計画 ～みんなで進める「男女“協働”参画」～	平成22～27年度	なし	
滝沢市	滝沢村男女共同参画計画「たきざわ輝きプラン」	平成17～26年度	なし	
雫石町	きらっと雫石未来プラン ～ここ(個々)からはじまるパートナーシップ～	平成17～26年度	なし	
葛巻町	葛巻町男女共同参画プラン ～ともに“かだって”つくる未来…にこにこプラン	平成20～24年度	なし	計画期間終了
岩手町	いわてまち男女共同参画プラン	平成22～26年度	なし	
紫波町	第二次紫波町男女共同参画推進計画 「紫あ波せあつぷるプランⅡ」	平成26～35年度	なし	
矢巾町	田園都市やはば男女共同参画プラン	平成18～27年度	なし	

(2) 具体的な施策の方向性－男女共同参画センターの広域活用

「もりおか女性センター」の概要

利用者を広域圏に拡大

●沿革

- 1995年3月 新盛岡市女性行動計画「なはんプラン21」において「(仮称)女性センター整備」が盛り込まれる
2000年6月 プラザおでって5階に盛岡市直営「もりおか女性センター」開館
2005年4月 「もりおか女性センター」、「盛岡市働く婦人の家」と統合
名称を「もりおか女性センター本館」、「もりおか女性センター別館」とする
盛岡市男女共同参画計画「新たなはんプラン」策定
2006年4月 「もりおか女性センター」の管理運営を、指定管理者「特定非営利活動法人 参画プランニング・いわて」に移行

●概要

- ・女性の自立と社会参画を支援するとともに、男女共同参画を推進する拠点
- ・男女共同参画社会の実現のために、各種事業の展開、情報・市民活動の場の提供、相談事業などを実施

●機能

1. 「学ぶ」 学習・研修の機会の場
2. 「知る」 情報提供・収集の場
3. 「出会う・力をつける」活動促進・交流の場
4. 「悩み・考える」女性相談
5. 「考え究める」調査・研究事業

●施設

- 本館 生活アトリエ、交流コーナー、子どもの部屋
別館 講習室3、調理室、和室2、軽運動室、予備室
(収容人員25～100名)

もりおか女性センター本館



(当所撮影)

(2) 具体的な施策の方向性－男女共同参画センターの広域活用

同様のことを実施している施設として、山形市男女共同参画センター“ファール”がある

山形市男女共同参画センターの広域活用の内容

●取組の内容：

圏域内における男女共同参画センターは山形市にしかないことから、広く圏域住民に男女共同参画意識を浸透させ、男女共同参画社会の形成を推進するため、山形市男女共同参画センターの広域活用を図る

●関係市町： 山形市(中心市)、上山市、天童市、山辺町、中山町

圏域人口 377,440人(平成22年国勢調査)

●中心市の役割：

参画センターで実施している講座等の一層の充実を図るとともに、周辺市町の住民が参画センターを利用できるようにする

●周辺市町の役割：

周辺市町の住民に対し、参画センターで実施している講座等の利用に関する情報提供を行う

●周辺市町の住民が利用可能なもの

会議室・保育室等の利用、情報コーナー(図書、DVD等)の利用、交流コーナーの利用、ファール自主事業への参加、市民企画講座への参加(受講のみ)、一般相談、法律相談 等

●期待される効果：

圏域内の2市2町住民からも事業に参加してもらうことで広域的な啓発が可能となり、男女共同参画意識の浸透を図ることができる
センター会議室等の利用や、地元では相談しにくい離婚やDVなどの相談が可能となり、圏域内住民の利便性の向上が図られる

